

# 篁

## 会報 2000 No.11

### ●100周年記念特集号

東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校同窓会



## 平成12年度「篁会総会」 ご案内



### 2大アトラクション開催

#### 癒しの写真スライドショーとジャズボーカル

忙しい毎日から時間という壁が消え、心が旅をする... 屋久島の写真。  
癒しの写真家テラウチマサト氏のカラーズライドをお楽しみ下さい。  
当日販売される絵はがきの売り上げは、ユネスコに寄付されます。

トム ジョーンズ、ロッド スチュアート等、多くのミュージシャンと共演。  
世界各国のテレビに出演。歌手、ロイド コール ウィリアムス氏の  
「愛しのエリー」、「慕情」等をお楽しみ下さい。 司会 マッド・アマノ

日時 平成12年6月25日(日)

受付開始：10時30分～

総会：11時00分～

懇親会：12時10分... ビュッフェスタイル  
(2大アトラクション開催)

閉会：14時30分

会場 東条インペリアルパレス

東京都千代田区麹町1-4 ☎ 03-3265-5111

会費 7000円(学生2000円)

#### 東条インペリアルパレス交通のご案内

- 地下鉄 半蔵門線(半蔵門駅) No.3出口 徒歩2分
- 有楽町線(麹町駅) No.1又はNo.3出口 徒歩5分
- 都バス 四ッ谷駅(晴海埠頭行)⇒半蔵門 日比谷・銀座(新宿駅西口行 四ッ谷行)
- 浅谷駅(お茶の水駅行)⇒麹町2丁目 白お茶の水駅(浅谷駅前)



今回幹事：高校10回生(S 33年卒)：高校31回生(S 54年卒)：高校51回生(H11年卒)  
次回幹事：高校11回生(S 34年卒)：高校32回生(S 55年卒)：高校52回生(H12年卒)

ご出席の場合のみ同封の葉書にて6月5日までにご返事をお願いします。

先生は府立第二高等女学校で講師(昭和7年~14年)を勤められた関係で、創立100周年記念特集号に、格別のご厚意により掲載することをお許しを得た。詳しくは、本文の「小倉遊亀先生の芸術へ誘う」(p18)と併せてお読み下さい。

●表紙について  
本号の表紙を飾る絵は文化勲章受賞者で画家の小倉遊亀(おぐら・ゆき)先生が、初めて海外旅行(中国)をされたときの構想に基づいて描かれた『徑』(昭和41年・71歳)である。満105歳を迎えられた現在も、絵筆をとって画業に専心されている。



## 目次 2000年・No.11/創立100周年記念特集号

母校創立百周年記念号に寄せて	城戸崎 愛	1
温故知新一創立百周年を迎えるにあたり	磯山 進	2
百周年記念行事と竹早高校への期待	中込 勝英	3
創立百周年記念事業		4
「モニュメント」の建立	駒見 宗信	6
創立百周年に寄せて	八木 隆子・金森トシエ・マッド・アマノ・小林 慎江 矢崎 藍・姫野 賢治・俵田 浩一・保延 裕子	7
府立第二高女・都立竹早高校100年の歩み		16
思い出の先生がた	小倉遊亀先生・金栗四三先生・宮尾幾夫先生 藤原澄子先生・大竹協子先生・金子史郎先生	18
座談会：「竹早」はいま		22
関西董会・湘南董会・(財)竹早会		26
竹早エコー		27
星の絆—専攻科と「たなばた会」—		32
学校の現況	矢嶋 邦男	38
総会報告	平野 隆史	39
理事会報告	小山紀久彌	40
会報通信	角掛 隆	41
平成12年度「董会総会」のご案内		表4

発行日=2000年5月11日

発行=董会：東京府立第二高等女学校  
東京都立竹早高等学校同窓会  
東京都文京区小石川4-2-1  
東京都立竹早高等学校内

編集=董会会報編集委員会

印刷=株式会社ニットー  
東京都文京区千駄木3-22-11  
TEL.03-3821-0210  
FAX.03-3823-0064

●会報編集委員会

委員長=角掛 隆(高校10回生)  
委員=小澤 悦(高校3回生) 高木 萬理子(高校3回生)  
向井 正昭(高校4回生) 山廣 俊雄(高校7回生)  
室田 容子(高校8回生) 加川 美津子(高校9回生)  
駒見 宗信(高校9回生) 平野 隆史(高校9回生)  
松本 泰子(高校9回生) 安藤 郁子(高校10回生)  
内山 光政(高校10回生) 下澤 尚子(高校10回生)  
関 文隆(高校10回生) 高橋 多助(高校10回生)  
池田 明子(高校11回生) 渡辺 信博(高校22回生)  
近藤 裕美(高校22回生)

表紙・本文デザイン=駒見 宗信

## 母校創立百周年記念号に寄せて

董会会長 城戸崎 愛



董会会報(第十一号)百周年記念特集号発刊に際し、これまで学校、同窓会の皆々様の有形無形の御支援、御協力にあずかりました事、改めてここに厚く御礼を申し上げます。

私が会長を引き受けましてから、この誌面での御挨拶も五回を重ねてまいり、その都度「あつという間の一年が経ちました」を無意識のうちに繰り返してまいりました。本当に何と短い四年であつたかと、感無量でございます。

遂に二千年を迎え、同時に我が母校にとつても百周年という節目の年、いよいよ百歳を迎える事になりました。十一月十八日の記念式典の日まで、百五十日余りとなり、光陰矢の如しを実感している昨今でございます。

まれにみる厳しい世相の中で、何とも理解に苦しむ事件の多いこの頃、空しい気持ちに落ち入りがちなの頃ですが、董会には、今迄通り、和やかな友情を育てられる場として、これからも若い人達に、先輩の築き上げられた歴史や伝統を引き継ぎながらも心機一転、力強く二十一世紀に向かって歩み出して頂き度いと心から願っております。私自身は何かお役に立てたのかと反省しきりの現在ですが、私にとりましては、先輩、後輩、沢山の方々との交流の場を持ってました事、特に百周年記念行事に向けて、学校、同窓会のあり方を考え、同じ目的に向かって力を合わせてこられた事、何よりの心の支えでございます。又、卒業式に参列させて頂くたびに、新入会員の皆様は「昨日の自分に克つ事、人に勝つのではない、自分自身に克つ事、命の尊さを自覚して自分探しの人生の門出を元気に歩み出して下さい」と六十年前の卒業生の一人からのメッセージを贈り続けられた事、有難く感謝の気持ち一杯でございます。

太平洋戦争終末の頃、青春真只中の私達は、当時、同年輩の優秀な青年達、

幼い少年達が、心ならずも学業志半ばにして、不本意な死と直面し、祖国の為、家族の幸の為、愛する人達の為にと、人夫々の立場から自分に云いきかせて、散つてゆかれた事を想い起しますと、半世紀過ぎた今でも昨日の事の様に胸が締めつけられる想いで一杯でございます。自分の命の残りをあげるから、その分長生きして下さいと、云い残して逝かれた少年兵達の言葉は強く強く脳裡に焼きついております。その貴い心と命を頂いた私達は、この事を後輩に引き継いでゆかねばと思つております。今時は難しい事かもしれませんが、これからの戦争を体験した私達世代の人々はおそらく生涯忘れる事のない体験を引きずつて生きてゆかねばならないと思つております。これからは足許をしっかりと見詰め直して二度と戦争のない二十一世紀を過ごせるよう若い方達に頑張つて頂き度いと心から願っております。

この一年を振り返つて、心から笑えた事、天に向かって大声で笑えた事であつたでしょうか？ 私、自信ありません。

でも最近感動した事は？ 喜び、怒り、哀しみ、楽しみと色々ありました

が、私は童話の本との出会いで本当に心が癒されました。子供と大人が一緒に読み思索出来るもの「童話」、大人の私も心から泣けて、心の糧を頂きました。皆様もきつとお読みになつた事と思つて、心の糧を頂きました。

- ・ 「葉っぱのフレディー」(いのちの旅) レオ バスカーリヤ作
- ・ 「いつでも会える」 菊田 まりこ作
- ・ 「君のためにできるコト」 菊田 まりこ作

\* \* \*

全国におられる董会会員の皆様、夫々のおかれていらっしゃる場において友情と連帯の和を広げ、御活躍下さいますようお願い申し上げます。

春の総会、秋の百周年記念の祝賀会には是非御出席下さいます。お会い出来る事を楽しみにしております。

特に、かつての董会会員の皆様がお揃いでお元気にご出席下さいますようお願い申し上げます。

## 温故知新

―創立百周年を迎えるにあたり―

竹早高等学校校長 磯山 進



箕会の皆さまにおかれましては益々ご健勝にて各方面で活躍のこととお慶び申し上げます。私こと四月一日をもって着任致しましたが、都立高校でも屈指の歴史と伝統を有する竹早高等学校に着任するにあたりまして、身の引き締まる思いをしております。

歴代の校長先生をはじめ教職員の皆さま、並びに竹早の学舎で学び、竹早の校風と伝統を築いてこられた卒業生の皆さまの功績を引き継ぎ、発展させていきたいと心新たにしておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

奇しくも本年が創立百周年を迎え、同窓会や父母と教師の会の皆様は物心両面にわたるご支援・ご協力のもとで記念事業の準備もすすみ、記念誌の編集も着々と進捗しております。

担当の教職員の精力的な資料蒐集によつて埋もれていた竹早の歴史を発掘し、記念誌に纏める作業も順調に進んでいるやに伺っておりますが、記念誌を通じて竹早の歴史も彷彿とすると期待しております。

それにつけても百年の伝統の重みを実感すること、しきりでありませぬ。この百年の間、府立第二高等女学校から都立竹早高等学校へと変遷するなかで数多の才媛と逸材を輩出し、国の内外を問わず、経済や社会・文化の発展に寄与してきた同窓生に思いを致すとき、在校生にとつても竹早高校に学ぶ誇りと自信を喚起するのではないだろうか。まさに温故知新であります。

創立百周年という節目の年にあたり在校生の皆さまには、是非先輩の足跡に思いを致し、良き伝統と校風を受け継ぎ、更に発展させるべく気持ちを新たにしたいと念じております。

幸い竹早高校に学ぶ生徒諸君は明るく礼儀正しく、自主的・自律的に考え、行動できる人たちです。しかも目的意識をもって日々の学校生活

## 百周年記念行事と竹早高校への期待

前竹早高等学校校長 中込 勝英



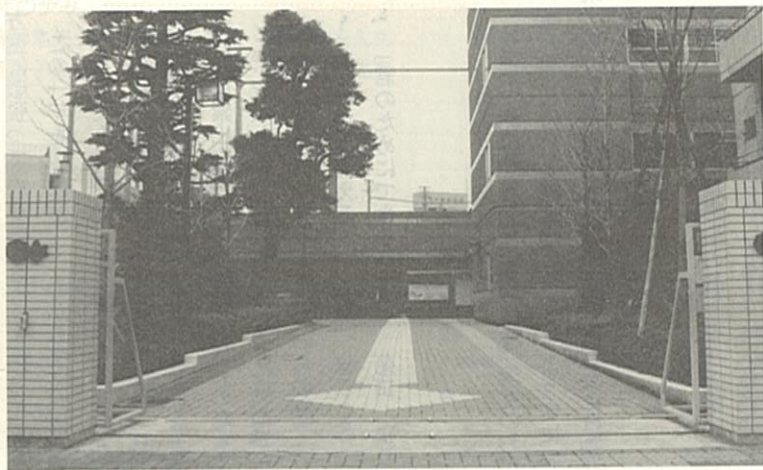
早いもので竹早高校に着任して二年目も終了しようとしています。前任の島のどちらを向いても海ばかりの生活から都心の文教の地と知られる竹早へ一変した環境にずいぶん戸惑いを覚えました。しかし、竹早高校の教職員、生徒、保護者そして同窓会(箕会)の皆さんから温かく迎えられるのがなく今日に至っています。

生徒が明朗で礼儀正しく元気に挨拶してくれることや、教育活動を通して伝統や校風が息づいていることを感じ、さすがに竹早高校だと思えます。また百周年記念行事への先生方の熱心な取り組み、その一端に触れることで竹早の百年にわたる歴史と伝統を興味深く知ることができたのも幸いです。

箕会、竹早会、竹早会館と紹介され最初はよく分りませんでした。その歴史と役割を知ること竹早の歴史認識をさらに深めることになりました。伝統校とはいへんありがたいもので、こうした同窓の方々の存在が有形無形に学校を支えてくれます。

それにしても、いよいよ間近にせまった百周年記念行事に、城戸崎会長様をはじめ箕会の皆さんには本当にお世話になっております。箕会の支援なしにはこの百周年という大事業はとも立ち行きません。先生方の準備作業も膨大で実に労多いことですが、これを支えているのは竹早高校への思いと箕会の存在です。皆さんの学校に対する思いが熱意ある取り組みとなり、それが学校の記念事業への準備を支えています。本当にありがたいことです。

母校への思いはやはり卒業生として格別のものがあると思えます。先日、記念事業の一つであるモニュメントのことで制作担当の伊藤さん、小堤さんが来校されました。モニュメントの制作をどのような観点から取り組むか熱



を送り、自分の進路を開拓できる力をもった人たちです。諸先輩の足跡を範として必ずや二十一世紀を担う人材として活躍してくれるものと期待し、信じております。

私たち教職員も、生徒一人ひとりのより良き社会的自己実現に向け、鋭意努力していく所存ですので、同窓会の皆さまにおかれましても、ご指導・ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

ところで現在、高校教育はいろいろな意味で改革を迫られております。豊かな心を培い、生徒一人ひとりの個性を伸長し、遅く生きる力を育むことを主眼として学習指導要領の改訂が行われ、平成十五年度から

実施されます。改訂要領では卒業単位が縮減され、教科横断的な総合的な学習の時間や教科「情報」が新設されますし、また平成十四年度からは完全学校週五日制となります。一方、平成十三年度には都立高校の教育のより一層の充実と開かれた学校づくりのために学校運営連絡協議会が設置されます。

このような流れに対応して、校内的にも組織的に取り組まなければならない課題が多々ありますが、竹早高校の教育の一層の充実と発展のために、教職員心を一つにして精進してまいりたいと存じます。

創立百周年を大きな節目として、竹早高校の生徒たちがそれぞれの可能性を一杯開花させ、来るべき二十一世紀を担う有為な人材として活躍されることを念じ、ご挨拶と致します。

意をもって話されました。生徒が自分の学校にどんなイメージをもつことができるか、それが卒業後も強い記憶と残るには毎日通う校門周辺のありようが大切ではなからうかと、ご自身の竹早高校時代の思い出をまじえて強調されたことがたいへん印象的でした。改めて同窓生の皆さんの竹早高校に対する思いを知ることができました。

私自身も自分の高校時代の母校を思う時、校門通りのプラタナスの並木や正面の校舎の古い時計台を鮮明に思い出さずにはいられません。やがて卒業生は学校の貴重な財産ではないでしょうか。こうした箕会の皆さんの思いが百周年記念行事に凝縮しその成果を通してこれからの竹早高校のあり方にも良い影響を与えてくれるものと確信しています。

今日、学校もいろいろな面から改革が問われています。以前と異なり世の中より一歩遅れて時代や社会の変化の波にさらされています。間もなく始まる学校週五日制に備えての新しい教育課程の編成作業に取り組んでいます。時代や社会の変化があまりに激しいので五十年後、百年後を考えることは難しく当面の十年にどう対応するか視点で考えざるをえません。理想と現実の間で竹早高校の歴史と伝統をどう守っていくか模索しているところでもあります。学校改革の一つの方策として、学校を開くということが強調されています。教育の場としての学校を、世間から離れた特別のものとして、世間に開かれ共にある場としてとらえ、生徒と先生とともに保護者や同窓生、また地域の人々と連携し広く全体として教育に関わることを求めています。

その具体策として学校運営連絡協議会を設立し、PTAや同窓会、そして地域の関係機関の代表の方々の参加をえて、広く学校運営のあり方に参画を求め種々の提言を受けると同時に、教育活動の評価をお願いすることになります。

学校の未来やあり方に深く思いをもちたれるPTAや同窓生の皆さんの参画はある面では当然のことでもあります。

大切な母校としての竹早高校をこれからどのように発展させていくか、箕会の皆さんから様々なご支援と共にそのありようについてもご指導いただく機会が多くなると思っていますので今後ともよろしくお願い致します。

## 記念事業のあらまし

いよいよ百周年の年を迎え、百周年記念事業実行委員会の動きも増々活発になって来ました。式典は学校とPTAが主催し、祝賀会は同窓会が主催しますが、三者が力を併せて作業を進め、全体として統一のとれた心にてこの一日にしたいと努力していますので、当日のご出席をお待ちしております。

式典、祝賀会以外の記念事業について更にご説明します。

### 記念誌の概要

#### <百周年記念誌別冊写真集刊行>

百周年記念誌編集委員会では、現在別冊写真集の編集に取り組んでいます。この写真集は、校舎、教育内容、修学旅行、文化祭、体育祭など、様々な項目別に百年の移り変わりを写真でたどっていくものです。卒業アルバムを中心とした沢山の懐かしい写真と解説文で構成し、皆様に楽しく読んでいただけるように工夫を重ねております。式典参加者には、当日別冊写真集を贈呈いたします。

#### <百周年記念誌刊行>

皆様のご協力のおかげで、当初不足を嘆いていた資料も大分集まり、卒業生の協力者の手によって、これまで手つかずだった百年の歴史資料が着々と整理されつつあります。これは地味ですが、百周年の記念事業の骨格に当る大切な仕事といえます。この仕事には同窓会の援助が不可欠です。今後も継続することで立派な成果が期待できます。

百周年記念誌は、その資料をもとに、竹早の地に練り広げられた青春の軌跡をたどるつもりですが、新たに明らかになった事実も含めて、皆様に興味深く読んでいただける内容になるよう、努力中です。発刊は式典の様子も載せるため、平成13年となります。

※記念誌発刊(平成13年)後、募金協力者には、記念誌本を贈呈いたします。

#### 百年後を見据えて

1900年に府立第二高女創立、ほぼ50年後に新制高校として生まれ変わった竹早高校は、今年創立百周年を迎えます。めまぐるしく進展する現代のネットワーク社会で21世紀に向けて新たな旅立ちが必要とされる今、式典の会場では参加者が共に百年の歴史を振り返り、各々が新しい百年を思い描けるような場にしたいと考えています。

#### 募金のお知らせ

金額	1口5,000円(何口でも可)
郵便振込口座	小石川郵便局
口座番号	00110-3-99336
加入者名	篁会百周年募金委員会

通信欄には、卒業年度・高女または高校卒業回数を明記してください。

すでに多くの方にご協力いただき有難うございました。

上記口座にて今後も受付いたしております。

ご寄付いただきました方には平成12年11月18日(土)に挙行されます式典・祝賀会へのご案内をさしあげ、記念誌を贈呈いたします。

領収書は郵便局の受領書をもって替えさせていただきます。

## 創立百周年記念事業

### 記念式典

**主催:** 竹早高等学校百周年記念事業実行委員会

**日時:** 平成12年11月18日(土)・午前10時~12時

**会場:** 響の森文京公会堂(シビックホール)

**司会:** 内多勝康氏(高校昭和57年卒)NHKアナウンサー

#### ■竹早高校の歴史探訪

映像とナレーションなどで百年の歴史をふりかえる

#### ■講演

小森陽一氏(高校昭和47年卒)

東京大学教養学部教授(専攻日本近代文学)、文芸評論家

#### ■校旗引継

篁基金で新調した校旗を、旧生徒会長から新生徒会長に手渡す

### 祝賀会

**主催:** 篁会百周年記念事業実行委員会

**日時:** 平成12年11月18日(土)・午後1時30分~3時15分

**会場:** 東京会館(会費10,000円の予定)

**司会:** 古屋和雄氏NHKアナウンサー

#### アトラクション:

#### ■舞囃子

山階敬子(高女昭和18年卒)

観世流能楽師

#### ■江戸里神楽(重要無形民俗文化財)

寿獅子 若山胤雄社中

●式典・祝賀会のご案内は募金協力者にお送りします。募金は別記の通り継続して受付中ですので、まだの方はご協力下さい。

●式典・祝賀会それぞれの参加人数把握のため、事前調査を行っております。百周年記念・祝賀会事前調査ハガキを、篁会会報誌に同封致しますので、出席を希望される方は、ご記入の上、ご投函下さい。

篁会百周年募金お振込み状況はおかげさまで

約2,250名 2,100万円を越しました。(平成12年3月31日現在)

## ● 創立百周年記念事業

### 「モニュメント」の建立

駒見 宗信 (高校9回生)

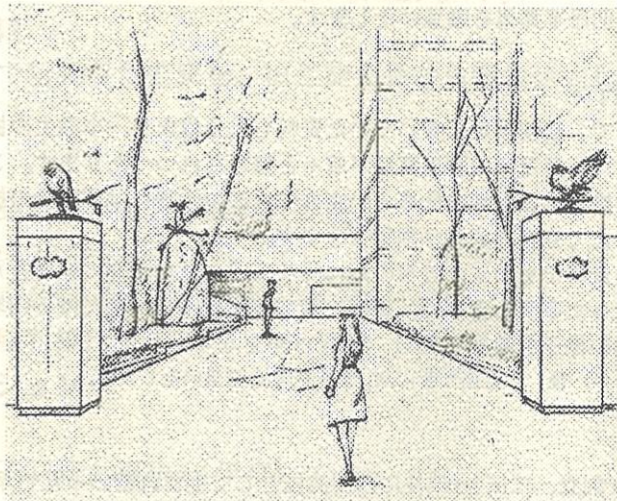
#### 「モニュメント」の目的と現状

少し難しい話になるが、わが国の「モニュメント」の現状と、設置目的について述べてみたい。今日、日本の各地でよく目にする「モニュメント」(屋外彫刻といってもよいが)は、特別目新しいものではなくなっている。「彫刻公害」といわれるくらい多種多様な彫刻が、公園といわず街中のいたるところで、見かけることができる。このような状況は、アメリカの一部の都市を除けば、恐らく日本だけの現象だといえよう。

そもそも彫刻は屋内にあって、純粹に芸術作品として鑑賞されるものであったが、絵体が大きくなるにつれて、屋外に進出していったものと考えられる。聖書の中から題材をとった物語性のある彫刻群や、英雄や偉人を顕彰した等身大の人物像が、人の集まる広場などに設置された。また、形態自体も誰が見てもわかる具象性の高い、モニュメンタリー(記念性)のあるものが求められた。特に、ヨーロッパ諸国では、このような傾向の屋外彫刻が多く見られる。

振り返って、日本の屋外彫刻の現状と目的を見ると、欧米諸国にない特色を見ることができると。欧米では、芸術の庇護者(パトロン)はあくまでも個人といった考え方が強いが、日本では、国や地方自治体といった公的機関が、その役割を果たしているケースが多いのが特色といえる。

一九六〇年代後半から盛んになったが、自治体が環境整備の中で修景を目的として、地域の個性を表現する方法として、また、文化振興策の一環として、公園や広場や街路沿いに競って彫刻を設置した。さらに、こういった流れは一般企業にまで波及し、彫刻の乱立を招いたといえよう。



したがって、彫刻が本来もつ芸術性や記念性が見過(こ)され、文化性や社会性といった面に重きが置かれたため、彫刻の存在意義や目的が、かえって希薄になってしまったといえる。

#### 「モニュメント」の意図するところ

創立百周年を記念してつくられる「モニュメント」は、陶芸家と彫刻家の合作によるものであ

る。二人とも本校の卒業生である。陶芸家の伊藤麻沙人君は、東京芸術大学陶芸科卒業の高校20回生。彫刻家の小堤良一君は、同じく東京芸術大学彫刻科卒業の高校24回生。二人とも鋭い感性と、豊かな創造力をもった作家である。

計画を具体化するに当たって、陶芸家の伊藤・彫刻家の小堤の両君と、担当理事の私とで、「モニュメント」の在り方とその内容といった基本的な問題について、数回にわたって検討を行った。百周年という(本校の歴史を表現した作品にするか、それとも学校という(教育の場としての教育的視点を重視したものにするか、といった多様な案が浮上した。

しかし、若者たちが集う場であり、長きにわたって残るであろうこの「モニュメント」が、いつの時代においても新鮮に感じ、物語性のある強い生命力をもったものでありたい、という願いをこめて結論を導き出した。したがって、作品のコンセプト(切り口)は、(未来への躍動がテーマとなろう。

上掲のカット写真は、その試案の一つであるが、今後限られた予算枠の中で、どのような作品に仕上げていくか、現時点では結論が出ていない。また、関係各者への調整も、未処理のままである。しかし、担当者の一人として、彫刻や陶壁がそれぞれ単体で独立して存在するのではなく、両者が融合一体化して、一つの新しい(芸術的空間)が創造できればと、願っている。

(建築評論家)

## 創立百周年に寄せて

### 思い出あれこれ

八木 隆子 (高女27回生甲組)

第二高女に私が入れて頂きましたのは大正十二年関東大震災直後の九月、二年生の二学期でした。厳しい編入試験があり、広島県立第一高女から難関を漸う通過(第三高女と第五高女は広島の成績証明書送付だけで入学許可を頂きましたし、家からも近かったのですが)、一番難しかった第二の合格を無駄にするのは残念で、遂に最も遠い竹早町迄四ツ谷塩町から通う事になりました。



然し三年になった頃はどうか第二の生徒になり切った楽しい毎日でしたが又一つ英語で驚きましたのは芳尾逸雄先生の西洋史の時間にジュリアス・シーザーの有名なお話を劇的な触りの所、ブルータス汝もか、のあたりは先生お得意の英語でお講義をなさいました。所がそれがそっくり学期試験の問題に出ました。勿論日本語でも話され答案も私達は日本語で書き満足なお点も頂きそれよかったです先生が採点なさってその答案を返して下さる時、福田静江さんの答案を私達によく見える様高々と差し上げられました。お講義の時伺った通りの英語で書かれた答案でした。そして芳尾先生は「福田さんには百二十点を上げます」とおっしゃって皆に読んで聞かせて下さいました。

満点以上の答案を初めて見ました。本当に驚きました。たしかお父様が

英語の先生とか伺って居ましたが、そんな方もクラスに居られたのです。

そして英語に限らず師範と一緒になので大変有能で御立派な先生方がお揃いで居られましたので幸せでした。従って私共一緒に卒業した方々は皆上級校に進学の折全員志望校に合格出来ました。今から思うと大した事だったと必々思います。特筆すべき事だと思えます。

次に第二で大変楽しく有難かったのは遠足部、水泳部の盛んな事でした。遠足部は師範の方とも一緒に有志の希望者が誰でも行く事の出来る、親としては仲々行けない様な名所名山でした。私は山登りも旅行も好きでしたので参加した所を思い出して見ますと、筑波山、榛名山、赤城山、富士登山、富士五湖廻り等々いづれも学校休日の時に行われました。参加者はいつも随分大勢でした。先生方も金栗四三先生を初め大勢さんでお世話下さいました。

登山の要領、心得、注意、準備等一生役にたつよい勉強をさせて頂き、すっかり旅行好きになりました。

又水泳部は私は三年、四年、五年と卒業迄行かせて頂きましたので唯水泳ばかりでなく舟を漕ぐ事、夜は先生方と海岸に皆で行き、星空を仰ぎ、星座を覚え、天文の事を習い、それぞれの先生方から毎日毎晩未知の自然を楽しんでお教え頂きました。その中で色々なお手伝いもさせて頂き覚えなければならぬ事が沢山ある事を知り、現在のこの年迄有難く大事にしております。

扱その水泳部も師範と一緒に、参加者は毎年百人以上で、まったくの初心者から先生の代理をなさる武市先輩の様な方迄様々でしたが、親切に教えて頂き乍ら訓練を受けられる楽しい道場でした。規則は皆よく守りましたが明かしく自由な空気でした。遠泳は鷹の島往復、沖の島往復一里、二里とよく泳ぎました(当時はキロではなく、一里二里でした)。櫓で漕ぐ和船も習い、ボートもシングルスカールもよく漕ぎました。

私が五年の時、日本女子大学附属高女四年の永井峰子さんとその妹さんの二人姉妹が自分の学校には水泳部がないし、当時はどの学校にもプールも無かったので、第二は水泳部が盛んとして参加させて頂きたいとの申し入

れがあり、第二の水泳部が預けられたそうです。

恰度その頃クローラとかブレストストローク、バックストローク等が日本にも入り、頻りに練習中だったのを峰子さんがそれを習いたいと望まれた由で、私が先生からの御命令で習った通りクローラをお教えして、それで忽ちスイスイ上達され、余程素質もおありだったのでしよう、そして又東京で随分練習を積まれたのでしようが、後に明治神宮の水泳大会(現在の国体)で優勝され、その時の男子優勝者でアムステルダムオリンピックのメダリストになられた高石勝雄氏(毎日新聞社長長男)と結婚されました。

次に特に申し上げたい事は第二は立派な先生が沢山おいででしたが、音楽の服部とわ先生(上野音大卒)は大変丁寧な楽譜楽典をお教え下さり、どんな難しい歌曲でも皆が歌える様になり易く教え込んで下さり、然も外国のオペラのアリア等英米の歌なら英語、ドイツの歌ならドイツ語と原語で教えて頂き、ドイツ語に必死で仮名をふったりして発音を習いました。あの頃覚えた歌が今でも口をついて出て来たりします。心ときめかす音楽の時間でした。

そして私には裁縫の古賀留女先生が一生忘れ得ぬ大恩人でした。私は第二に入る前広島に居り、地方では裁縫に大変力を入れますので浴衣の早縫競争の時あわてて衿を半分に裁つてしまい、先生に叱られて罰に運針を嫌程させられたりしたお蔭で、転校した時には第二の方よりいくらか進んで居たのでしよう、第二では裁縫の縫いかけは持ち帰り禁止でしたから、皆家で補う事もなく私はいつも早く出来てしまい手持ち無沙汰になるので「材料があるなら」と単羽織と男袴を縫わせて下さいました。後々大変役に立たせて頂きました。こんな学校は他には聞いた事がありません。

大切な思出の宝です。この宝を頂いた学校と先生方に泌々御礼を申し上げなければと、此の思い出を書かせて頂きました。

現在の中学・高校の空気が大正の頃の雰囲気とを思い合わせますと、余りの違いに全く感無量でございます。

竹早高校益々の御栄光を念じつつ終らせて頂きます。

や教育を熱望するのは自分たちの啓蒙と向上のためであって、夫の家庭教師や子どもの保母になるためではない、とバツサリ。続いて、黄金王の奴隷に寄生し、その金で宗教よ芸術よと、精神が、女の生活に何の權威があるのか、と問う。さらに、金銭にならない仕事を見下すような厨川説にも、生活難は男女の別を問わないのであって、そうした人々をよそにして芸術や宗教に喋々とする女性をつくるのが目的なら女子の高等教育は断じて無用と言いつつ切っている。

実は、私は山川さんとは縁があつて、新聞記者のころは何度か取材でお目にかかつています。昭和55年秋に九十歳のお誕生日の前日亡くなられた山川さんの追悼原稿も解説面に書いたが、夫君・均氏との四十年あまりの結婚生活は、友人たちから「琴瑟(きんしつ) 相和す」をもじつて「均菊相和す」とからかわれるほどであつたことも記した。論理は鋭かつたが、柔らかな人間性に富む方でもあつた。

私は新聞社を定年退職後、82年に湘南の藤沢市江の島にできた県立かながわ女性センターの初代館長になつたが、センター内の図書館の特徴を女性労働において「山川菊栄文庫」を遺族の協力を得て開設し、その後、御生誕百年記念の催しも行った。山川さんは昭和11年から亡くなるまで藤沢市に住まれ、戦後労働省の初代婦人少年局長も務められたからである。さらに私は本校百周年の記念史の編集を目下お手伝いしているが、著名な同窓生の筆頭に山川さんの登場は言うまでもない。いろいろな面で先輩を身近に感じられることを嬉しく思っている。

さて、私は昭和13年第二高女に入学、18年卒業の43回生で、戦中派と言える。思い出は数多い。卒業するときサインブックに書いてもらった級友や先生がたの言葉も懐かしいが、私の胸にひびいたのは、国語の杉森美代子先生の次のひとことであつた。

「わが行く道は われつくらまし」

戦後、世界的な男女平等の波のうねりのなかで、女性が自分の生き方を自分で選び決定する、自己決定権は、現在、人権の柱として広く認められるようになったが、前記のひとことはそれを先取りしたものと言えよ

## 男子禁制―男女共学―共同参画へ

金森 トシエ (高女43回生)



明治33年11月7日の開校式では、第二高女の生徒が女子師範の生徒とともに「遊戯運動」(注・ダンスのことらしい)を披露したとのこと。以来、毎年には大運動会が催されたが、大正の始めころまでは男子禁制、父兄でも入場を断られたと、百周年記念事業委員会の記念通信16号に記されている。

それから約三十年の歳月が流れた昭和24年には男女共学開始、翌年校名が東京都立竹早高校と改められた。戦前の日本の「男女隔離」社会は、男女共学・平等社会へと新しい一歩を踏み出したのである。

振り返ると、府立第二高女が開校された明治33年は、女子高等教育が開いた年でもあつた。同じ年に女子英学塾(津田塾大)、東京女医学校(東京女子医大)、女子美術学校(女子美術大)があいついで開校し、翌34年には日本女子大学(日本女子大)、その翌年は東京女子体操学校(東京女子体育大)……といった具合である。こうした動きを当時の男性はどう受け止めたのだろうか。

ひとつの例を、大正期の英文学者・厨川白村の北米見聞記のなかに見ることができる。彼は、米国の男性が「黄金王の奴隷」つまり金のための義務に忙殺されているのに対して、女性が趣味を豊かにすることに努め、夫を無理にでも教会や芝居見物に誘い出すような生き方を、精神文明への貢献として評価している。そして、日本の女子の高等教育には「文学や宗教、芸術など、金銭にならない仕事に素養と理解のある新しい良妻賢母を」と望んでいる。これに対して、胸のすくような鋭い反論を浴びせたのが私たちの大先輩、明治40年に東京府立第二高女を卒業し、さらに津田英学塾を終えて階級的視点から女性問題を論じていた山川菊栄さんだった。全集の大正七年の項の所載によると山川さんはまず、日本の女性が学問

う。  
昨年、政府は男女共同参画社会基本法を成立させた。母校の百周年の道は共学から共同参画・共生の21世紀に続く。後輩たちが教師とともに、新しい道づくりにチャレンジされるよう心から期待して、私のひとことメッセージを拙文の結びとさせて頂く。「チャレンジはおもしろい。逃げて道はない」

(ジャーナリスト・元読売新聞東京本社編集局婦人部長)

## ―紫竹会・五十年に渉る友情―

小林 慎江 (高校4回生)



私たち高校四回生は、都立第二高等女学校が竹早高校に移行した学制改革期に在学しました。特別な時代であつたと思う一方、いつの時代にも特有の問題があり、どの学年もそれらを前向きに捉えながら、充実した高女時代・高校時代を送って来たのだとも思います。そのような一年一年の積み重ねが百年の歴史を創ってきたともいえます。百周年の機会に、この大きな変革期に在学した学年の、学生時代と卒業後を報告したいと思います。

在学時代

高校四回生のうち約百名は昭和二十一年に第二高等女学校に入学しました。第二次大戦直後の、現行の学校制度がまだ、検討段階だった頃のことです。そして昭和二十三年に第二高女が新制第二女子高等学校に変わると、その併設中学三年に位置づけられました。昭和二十四年に都立高校が男女共学になった時、男性五名を含む定員二百名の学年になりました。その年、学校の名称は都立竹早高等学校に変わりました。

竹早高校は一年から三年までの生徒で編成した、縦割のホームルームを基幹組織としてスタートしました。授業は学年ごとだったり、科目によつ

てはそれを選択した三学年が一緒だったりでしたが、決められた教室に移動して受けましたので、何となく落ち着きませんでした。三年になった時にこの試みは終了し、同学年でAからDの四つの横割りホームルームを作りました。

#### 紫竹会の発足

このような学生時代でしたから、在学中は一つの学年としてまとまりにくい面がありました。しかし卒業後は、同学年二百二十名で同期クラス会を発足させ、竹早の第四回卒を組み合わせた四竹(しちく)を、紫竹と美的に書き改めて「紫竹会」と命名し、総会開催や会誌の発行によって親睦を図り、会員の発展向上を目指しました。

#### 紫竹会の活動

会誌「紫竹」の創刊号は、卒業した年の夏に発行されました。社会人や大学生になったばかりの同期生の、新しい近況がいきいきと報告されています。会誌は当時、年一冊ずつ発行されましたが、どの号にも真摯な生き方に裏打ちされた会員の近況が率直に報告されています。共学の大学(早大・理工学部)に進学して、同性の友人と話す機会の少なかった私は、会誌を読むことによって勇気づけられ、励まされました。

大学を卒業すると、生活の場を大阪に移すことになりました。もちろん、大切な紫竹誌を持参しました。

それから数年は、私だけでなく、会員の一人上の移動が激しい時でした。結婚した人、より深く仕事に関わるようになった人、外国に住むようになった人、いろいろな方面に発展した同期生からのお便りによって、どれほど視野が広がられたことでしょう！

#### 関西紫竹会

関西にも十名ほどの会員が住むようになり、関西紫竹会と称して、年一度は会員のお宅に集まり、東京弁のお喋りを楽しむようになりました。誰にとっても、貴重な集まりになりました。

その関西紫竹会が、平成十年度の関西筆会総会の当番幹事を勤めました。大阪城を眼下に見下ろす会場で、近世日本史専攻の脇田先生から「大

阪城と秀吉」の講演を聞いたこの会は、出席の方達から好評で、関西紫竹会の連携の良さを示す好機になりました。

紫竹会総会も京都で二度ほど開きました。最初はもう十年余り前のことで、まだ現役(京都大学原子炉実験所勤務)でした。職場の同僚に準備の話をしましたところ、紫竹会の実績にいたく敬意を表され、誇らしかったことを思い出します。次は平成十一年度の総会でした。四条加茂川畔の料亭に四十名余りが集まり、紫宸殿写しのお雛様を鑑賞しながら、楽しいひと時を過ごしました。総会で顔を合わせることに、ただそれだけでも、素晴らしい報告になることを実感しました。

このように、五十年の歳月をかけて築いてきた友情を思うと、同期生の縁の深さを思わずにはいられません。若い頃には、想像すらできないことでした。

そろそろ紙数もつきて参りました。

最後に、母校と筆会の益々の発展を祈念して、筆を置かせていただきます。

## パロディとは何？

マツド・アマノ(本名 天野正之・高校10年生)



パロディというジャンルの作品を作り始めて今年でおよそ30年になる。ベトナム戦争に反対する運動がアメリカで大きなうねりとなって広がっていった一九六九年と一九七〇年に私は銀座の画廊で「悪い笑い展」と題した個展を開いた。反戦をテーマにして大ヒットとなったハリウッド映画「イージーライダー」が製作、公開されたのもたしか同時期だったと思う。正月休みを利用して東京に立ち寄ったベトナム帰還兵が数人、個展会場にやってきてニクソン大統領の顔が少しづつフランケンシュタインに変わっていく作品を見て「まさにこの通りだ！」と大声

をあげて笑いながら私に握手を求めてきたことをついこの間のことに思い出す。

当時、家電販売会社の宣伝部に勤務していた私は週刊誌にパロディを連載したり、日本テレビの人気番組だった「11PM」にたびたび出演し、ホスト役の大橋巨泉氏とパロディ談義に花を咲かせたりした。他人の写真を無断で改ざんした、として山岳写真家から訴えられ、裁判は16年も続いた。世に言う「パロディ裁判」である。数人のスキーヤーが斜面を滑降する写真に巨大なスノータイヤを配し、自動車公害を表現したものだ。パロディだから著作権侵害ではない」という高裁の判決のあと最高裁で差し戻しとなり結局、和解調停となり一応のケリがついた。法に訴えるより公害批判のポスターとして原告と被告が協力すればいいじゃないか、という声をよく耳にした。「訴えた写真家は、ずいぶん淋しい性格の人だなあ、というのが、このパロディ裁判が起きた時の、ぼくの印象であった」と美術雑誌に感想を述べたのは漫画家の赤塚不二夫さんだった。

サラリーマンとパロディ作家の二足のわらじに決着をつけて退職したあと、私はアメリカに単身、パロディ視察旅行を決定した。約四カ月のアメリカ旅行は私の人生の転機となった。十歳と五歳の子供を引き連れてロサンゼルスに移住したのが一九七八年の夏。親父が不整脈のため心臓にペースメーカーを入れる手術をした時の移住である。なにも、そんな時に移住することはないだろう、と周囲から見られたが、「このタイミングをはずしたら二度と行けなくなる」といった危機感を抱いていたので、あえて移住を決行した。十年におよぶアメリカ生活は、私はもちろん家族にとっても貴重な体験となって心の中に生きている。日米二つの言葉と文化を理解する、いわゆる「バイリンガル」「バイカルチャー」を目指した二人の子供は今、三十一歳と二十六歳。長男はゴルフのレッスンプロの資格をとり、米国でプロコーチになるため再度、移住を考えている。長女はカリフォルニアの西海岸のアーバイン市に本社のあるアパレルメーカーで日米、香港を股にかけて仕事に励んでいる。

私は写真週刊誌「FOCUS」の巻末にパロディを連載し始めて約二十年

になる。官僚の天下りを風刺したタブロイド版「天下り新聞」を発行したり、葉書エイズ問題に抗議するため厚生省前で患者たちとともにデモをしたり、住専への公的資金導入に反対するアピールを渋谷ハチ公前広場で行ったり、都庁舎の知事室前の部屋に設置した二つで3億円の彫刻の移転を石原知事に要請し、実行させたりした。いずれも「税金のムダ遣い」に怒り、パロディの毒矢を放ったものだ。

今、私が最も関心を寄せていることは沖縄国際平和研究所の設立である。沖縄と本土の位置が逆転している作品を見ていたきたい。



多くの島民の犠牲者を出した沖縄に平和を訴える研究所ができることは意味のあることだと思ふ。

パロディに興味のある方は、私のホームページを見て欲しい。意見のある方はEmailでどしどし送っていただきたい。(会報の広告をご参照ください)

## 「16番大塚行き」

矢崎 藍(本名 柴田竹代・高校11年生)



覚えていてほしい？ 授業中にいつも聞こえていた、表通りを走るあの懐かしい都電の音。

コンクリート路面で鉄の車輪とレールが発する音は、騒音以外の何物でもないけれど、いえ、それに、いつも聞こえていたわけではないのでしょね。も

しかして私がこれまでの数十年に何度も耳に甦らせてきたために、すっか

り記憶に座り込んでしまった幻の音だったりして。

でも、目をつぶれば、ほら、暗い闇から都電が現われてくるよ。16番大塚行で帰る私、17番池袋行に乗る友人たち。明日また会う顔なのに離れ難くて、ちよつと手を上げて路面から高いステップへ、とんと乗る。後ろにゆらつとする襲スカートの重み。

高校時代はたった三年。大学受験の準備期間であつというまに過ぎる。でも生物の木村先生は最初の授業で私たちを新緑の樟の木の下に連れ出した。以後永く私はさやさと風にそよぐ樟の木と親しい(私のいまの勤務校にも樟の木が三本ある。夏の木漏れ日が色タイルにちらちらしている。私は樟の木を青春の木だときめている)

近代詩を早口で語る青木先生の目は、私たちの頭上をこえて何か遠いものを追いかけているようにみえた。

角川先生の人文地理は旅の話で、時につきのお休みの海外旅行を予告する。板垣先生の世界史で広がる古代エジプトの空。チョークで描かれた科挙の試験場の長屋の図。私たちは先生の視線の先の世界を見る。ふん、テストが何さ。受験が何さ。……いいながらめちやくちやな暗記作業で明かす朝もあつたつけ。(しめきり間際にとりかかりパニックになる習性は、いまだにかわらない)

苦手は体育。ことに体育館のダンスの時間。布施先生のかけ声でステップしながら列になって出て行く。滑らかにリズムにのるクラスメートが羨ましい。

先生の模範演技は後ろのほうから背伸びして見た。かろやかな跳躍。空中で一瞬が輝く。胸がつかまるような笑顔が伝えているのは、「跳ぶのはね、すてきなことなのよ。わかる?」——ええ、わかります。跳ばなくなつて。その笑顔も年月を耐え、今の記憶の中の布施先生は、床から一・五メートルは跳ぶ。

こうした個々の先生の授業への好意とは別に、学校という組織に自分が一体化されたくないという自己主張も強くあつた。何しろ、「旧府立第二高女」「名門」と耳にタコができるほど言われましたからね。

## 道路とともに歩んだ人生

姫野 賢治 (高校26回生)



昭和四十九年の四月、私は胸を躍らせて東京大学に入学した。ひたすら天文学のことばかりを考えながら。思い起こせば小学生高学年のこと、ふと友達から一冊の天文学の本を借りたことをきっかけとして、私は取り付かれたように宇宙に思いを馳せる子供になった。それ以来、小遣いを貯めては天文学書を買ひ、読みあさつた。大学では天文学を専攻するつもりでいたし、そのつもりで大学に入学した。もし、進学振分けの制度がなかったら、私は間違いなく天文学科を受験していたであらう。

しかし、教養学部での二年半に次第に世間を見る目にも変化が出てきて、進路に他の可能性を考えるようになった。たまたま、オイルショックやアフリカの干ばつなどの世界的な大問題が騒がれていた時期でもあり、狭い世界に閉じ込められ世捨て人になりきることに少なからず疑問を感じ始め、理学よりも工学を選ぶべきではないかと思うようになった。ただ、まだ天文学に対する未練を完全には捨てきれず、たとえば土木工学ならば、地球物理学あたりの分野を接点として将来天文学に関わる仕事につけるかも知れないなどという淡い期待を抱き、土木工学科を選んだのである。

土木工学科に進学してみると、それ自身なかなかおもしろく、また、思ったよりも居心地が良かったので次第に天文学への未練は薄れて気持ちの上で土木にドップリとつかれるようになった。そして、ほとんど情報を集めることもなく大勢に流されて公務員になることを志望し、なりゆきで、当時は国家公務員試験(上級職)の土木職を受験し、土木屋としては非常にマイナーな防衛庁に就職した。制服組と私服組の役割分担もよく理解せず、土木職である以上、全国の防衛施設の最適な配置計画とか、戦闘中の物資の最適な輸送計画とかを担当するのだからと勝手に解釈していたし、

いま思えば、おとなたちには言わざるをえない挨拶、枕言葉のただけ。でも、若者は過去に從属したり支配されたくない。

「百周年だつてさ。ふん」といまの高校生もきつと友達と言っていると思う。時代の流れに浮き沈みしながら、多くの青春が泳いでいった百年だと思えるのは、それが過去になつてからのこと。

そうして、まさかそこまで生きるとは思わなかつた二千年になつた。二千年——というのも大人の挨拶みたいなものですけどね。

あまり成熟した実感が無い。あいかわらず上の空人間で、いつも何かを追いかけているだけで。最近では連句という文学ジャンルにとりくんでい。出発点は伝統俳諧だけれど、この時代に人と人との間に定型詩を介在させることじたいが、新鮮に思える。

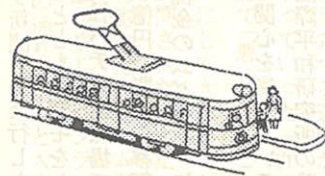
先日は「文学表現」の講義で、韓国からの留学生を各座に一人ずついれて連句を巻かせてみた。20数座一〇〇余人。困難をこえようとする表現エネルギーの高揚がおもしろくて。

インターネット連句は昨年からを試み。海外もふくむ不特定多数の参加者がえんえんと鎖連句をつなげている。(いまのぞいたら2559番です)どこまで続くのか、どういふ事件がおこるのか、すべては未知。興味のあるかたは接続してみてください。

<http://village.infoweb.ne.jp/~megitune/>

……まったく何やつてんだか。

ええ、都電の音がまだ聞こえているガキで。



そもそも実際に採用された防衛施設庁という組織の存在すら全く知らなかつたのだから相当いい加減な意思決定をしたものである。こんな状態であつたから、想像と実際の乖離は大きく、入庁後、大変失望し、二年半後に転職を決心するに至つた。天文学と土木工学の違いはあるものの、とにかく子供の頃からの夢である研究者になろうと思つたのである。

早速、卒業論文の指導教授をしていただいた先生にご相談したところ、幸いにもその後七年半勤めることになる東京工業大学の交通工学講座の助手のポストを紹介して頂いた次第である。今となってみれば大学院も出ていないのによくもこんなに恵まれたポストを頂けたものだと思つているが、これが私と道路工学との最初の出会いであつた。

その後、八年間、北海道大学に助教として採用して頂き、物心がついて初めての地方での生活を楽しんだ。札幌、東京間を年に数十往復する生活を強いられ、すべてのものは東京を中心に動いているということを実感した。ただ、時間はたつぷりとあり、のんびりとした時間を過ごすことができた。そして今から三年前、中央大学理工学部を採用して頂き、現在、忙しいながらも百パーセント横社会とも言われる組織で自由な生活を満喫している。竹早高校の正門を出て、左に十五分ほど歩いたところにキャンパスがあるので、一度お越しください。

卒業後二十年が経つた今、どうせ研究者になるのだつたら、天文学をやっておけばよかつたな、などとも思ひながら、毎日アスファルト舗装を中心とした道路工学という学問とともにエンジニア致しております。

(中央大学理工学部土木工学科教授)





## 改築を経験して

俵田 浩一 (高校32回生)



別の思いがあります。

竹早高校は平成元年より改築工事が始まり、平成8年の3月に終了しています。足掛け7年の他校では類を見ない長期にわたって工事が行なわれました。そのため、工事中の7年間は、生徒はもちろんのこと教職員も不自由な思いをし、他校では考えられないような負担がありました。私は平成2年に着任しましたので、10年のうち6年間を校舎改築工事の中で過ごしました。竹早高校の改築工事が始まってから新校舎完成までを自分の目で見ながら過ごすことができ、竹早高校の思い出がまた一つできたような気がしました。

改築工事も校舎棟工事の1期工事と体育棟工事の2期工事に分かれますが、特に2期工事中は学校内に体育施設が全くなく、どうやって体育の授業を行なったら良いのか、生徒のためにはどうすることが一番良いのかを全教職員が一体となって考えていた時期でした。当時はとても大変だったのですが、今思うと、改築ということが逆に教職員を一つにまとめたのではないかと思います。また、当時竹早高校に着任して最初に感じたことは、竹早高校を大切にしたいという先生方が多かったことです。「竹早高校を良い学校にしたい」「竹早高校が好きである」という先生方が多かったことがとても印象に残っています。私は教員であると同時に卒業生でしたので、自分の卒業した学校が良くなってほしいという気持ちが強くあります。しかし、当時はほとんどの先生方が私と同じような気持ちで

## 大変革期に臨む

保延 裕子 (高校33回生)

ハイテク企業の株価高騰、M&Aの巨大化、電子商取引がもたらすパラダイムシフト…わが母校竹早高校が創立百周年を迎える西暦二〇〇〇年は、デジタルエコノミーと呼ばれる大変革の年となりました。

デジタルエコノミーはこれまでは米国主導でしたが、このダイナミックな動きに日本がどうやって適応していくのか：私は仕事で米国を中心とする海外のハイテク企業と接するにつけ、このテーマがわれわれ日本人にとっても本格的に現実性を帯びてきたことを実感するのです。

私は現在、日本市場への参入を図る海外の企業に対して、コミュニケーション面(広報)でのサポートを行うPRコンサルタントという仕事をしています。特に最近ハイテク分野の先端企業と多く接しており、彼らの明確なビジョン、先進性、創造力、そして激しい熱意に圧倒されていくことがあります。

そして何よりも、彼らはプレゼンテーションが著しくうまい！彼らの初めての訪問を受けると、互いの自己紹介から始めるわけですが、彼らは堂々として自信と熱意に満ち溢れ、ほんの僅かな限られた時間のなかで、自分達のビジネスの概要、市場での際立った位置づけ、先進性、将来性、短期的・長期的なビジョンと目標、そして目標達成のための戦略などを、見事なまでの簡潔さと説得力をもってプレゼンテーションしていきます。彼らは自分たちのビジネスに誇りを持ち必ず成功するという強い信念を、短いプレゼンテーションを通じて私達に訴えます。これまでの常識を覆すような彼らのビジネスモデルに加えて、厳しいベンチャーキャピタルをうならせてきた見事なプレゼンテーションと理論武装とあつては、鬼に金棒です。

会議の進め方も日本式とは異なります。日本では形式的なものが多いのに対して、米国式は事前に明確な目標設定がされネクストステップを確認して終わります。議論の仕方についても、日本ではとかく協調性が重視さ

もっていました。このときは竹早高校が生徒だけでなく先生方にも恵まれていると実感したことを覚えています。また、当時の体育の授業の様子を見ると、校内では他の教職員の協力を得て会議室を体育室として使用させてもらいました。会議室ではマット運動や畳を授業のたびに敷いて柔道をおこないました。また、外部の施設として文京区のスポーツセンター、小石川グラウンド、少年野球場、文京総合体育館などを利用しました。特にスポーツセンターと小石川グラウンドは週のうち一日を文京区のご好意により使わせていただけることになり、一学年づつ使うことができました。当時の生徒たちは授業のたびに学校とスポーツセンターを往復する生活でした。私たち教員はスポーツセンターでの授業が6時間ある日には、一つのクラスの授業が終わるとそのまま残り、次のクラスの生徒がくるのを待っていた覚えがあります。当時の生徒は時間が来るとしつかりとスポーツセンターに来て、終わると次の授業に間に合うように学校に帰っていました。6年間近くそういう生活が続いていたのですが、学校とスポーツセンターの行き帰りについての事故はなかったと思います。今考えると竹早の生徒だからできたことだと思います。

平成8年に新しい校舎が完成し、体育施設も立派なものになりました。現在は恵まれた環境で体育の授業を行うことができるようになりました。しかし、改築中の生徒と比べて何か物足りないものを感じます。改築中の生徒たちは、非常に劣悪な環境で活動をしていました。しかし、精神的にはとてもたくましさを感じました。悪い条件の中でもできることは何かを考え、精一杯活動していました。いまの生徒たちは、よい環境に慣れてしまったためか食欲に欠けているように思います。人柄はいいのですが、たくましさ、強さが足りないように思います。

竹早高校も校舎が完成し、百周年をむかえいよいよ21世紀にむけて発展するときだと思えます。母校と篤会のますますの発展と在校生諸君の活躍を期待しております。

れ大胆で異なる意見は避けた方が無難のケースが多いのに対し、米国ではその逆です。自分の意見を持たない人は軽蔑され、異なる意見は皆に別の視点で考える機会を提供するものとして歓迎され徹底的に議論されます。どちらが生産性が高いかは言うまでもありません。

彼らのそのようなコミュニケーション手法に接するにつけ、日本のことが気になります。ボーダレスなデジタル革命の真っ只中におかれながら、日本が世界から取り残されはしないだろうかと不安に思うのです。

米国のデジタル革命もまだ試行錯誤の段階ではありますが、これを経ずして成功はあり得ず、デジタルエコノミーの本格的な到来はもう時間の問題であるように思われます。そしてその原動力のひとつが米国式コミュニケーション手法です。

日本がデジタルエコノミーに適応していくためには、規制や税制、特許などの多くの問題があることが指摘されています。でも、最終的に一番足を引っ張ることになってしまいうのが日本式コミュニケーションではないだろうか、最近よく考えます。

私は、小学校から中学にかけてを米国で過ごしました。米国では、生徒の自発的な参加を促すゲームやパーティー、フリーディスカッションなどが授業の基盤となっていました。日本では先生の説明したことを覚えるといった受け身のものが主流のようです。米国で自己表現力や自己主張能力、日本で協調性が育つのも、ここにルーツがあるようにも思われます。日本式コミュニケーションにはおおくゆかしさなどそれなりの良さや美しさもあります。しかし、世界がボーダレスとなった今、使い分けをしなくてはなりません。

私が属するPR業界は、海外の企業むけに日本市場向けコミュニケーションをサポートすることに大きなウエイトを置いてきました。今後は、日本の企業・団体が21世紀に向けて、グローバルな舞台で大きく活躍し成功していけるよう、彼らにコミュニケーション面でのサポートを提供するべく、我々のビジネスもまた変革をせまられているようだと、大変革期にあり思うのです。

●東京府立第二高等女学校・東京都立竹早高等学校 100年の歩み (1899年～1999年)

年号	本校の動向	社会の動向
明治28年(1895) 明治32年(1899)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等女学校規定省令第1号(1月)</li> <li>高等女学校令勅令第32号・修業年限4年・東京府第二高等女学校創設(2月)</li> <li>林吾一校長就任(東京府女子師範学校校長と兼務)(3月)</li> <li>授業開始、教室不足のため光園寺別室に仮教室(5月)</li> <li>現在の校地に移る(9月)</li> </ul>	
明治34年(1901)	<ul style="list-style-type: none"> <li>開校式 1学年43、2学年40、3学年110、4学年40、5学年48、補習科38 (1月)</li> <li>第1回卒業生、同窓会創設・補習科廃止、運動の奨励(3月)</li> <li>「東京府立第二高等女学校」と名称変更(7月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露開戦、義援金集める(2月)</li> </ul>
明治37年(1904) 明治40年(1907)	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習科復活(2月)</li> <li>校歌制定、本科第二部設置(4月)</li> </ul>	
明治42年(1909) 明治43年(1910)	<ul style="list-style-type: none"> <li>林吾一校長辞職、鈴木光愛校長就任(9月)</li> <li>高等女学校令(修業年限4年)(10月)</li> <li>服装規定制定(10月)</li> </ul>	
明治44年(1911)	<ul style="list-style-type: none"> <li>同窓会「会報」第1号発行(3月)</li> <li>補習科廃止(4月)</li> </ul>	
大正6年(1917) 大正9年(1920)	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎一部改築工事完成(5月)</li> <li>鈴木光愛校長退職、高橋清一校長就任(4月)</li> <li>高等女学校令 勅令第199号(修業年限5 or 4年)(7月)</li> </ul>	
大正10年(1921) 大正11年(1922) 大正12年(1923)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒倍加。同窓会を「墓会」と命名。校長会長制を改め理事制とする(4月)</li> <li>ブルマー採用、スポーツ盛ん、竹早チームの黄金時代</li> <li>高橋校長逝去、龍山義亮校長就任(3月)</li> <li>極東オリンピックに排球選手を送る(エキジビションゲーム)(5月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東大震災(9月)</li> </ul>
大正14年(1925) 大正15年(1926)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立25周年記念祝賀会(11月)</li> <li>教員保母伝習所(大正11年より)を収容</li> </ul>	
昭和2年(1927)	<ul style="list-style-type: none"> <li>龍山校長榮転(9月)</li> <li>田中一元校長就任(10月)</li> <li>セーラー服採用、校章制定(10月)</li> </ul>	
昭和4年(1929) 昭和5年(1930) 昭和6年(1931) 昭和7年(1932) 昭和8年(1933)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立30周年記念奉祝運動会(11月)</li> <li>高松宮妃来臨(11月)</li> <li>校旗制定(9月)</li> <li>賀陽宮恒憲殿下来臨(1月)</li> <li>校舎改築工事開始(11月)</li> <li>補習科設置</li> </ul>	
昭和9年(1934) 昭和11年(1936) 昭和13年(1938) 昭和14年(1939) 昭和15年(1940) 昭和16年(1941) 昭和17年(1942)	<ul style="list-style-type: none"> <li>田中一元校長退職、加藤覚亮校長就任(4月)</li> <li>創立40周年記念祝賀運動会開催(6月)</li> <li>改築落成、40周年記念式典(11月)</li> <li>補習科を専攻科と改める 小平農園設ける(4月)</li> <li>小平農園農舎新築落成式(7月)</li> <li>修学年短縮に関する学制改革により、中等学校4年生となる(8月)</li> </ul>	
昭和18年(1943)	<ul style="list-style-type: none"> <li>賀陽宮妃殿下来臨(2月)</li> <li>加藤覚亮校長榮転(3月)</li> <li>中等教育令 勅令第36号(修業年限4年)(4月)</li> <li>女子師範、東京第一師範学校の女子部に移管 額田登校長就任(4月)</li> <li>国民勤労報国際出動令(5月)</li> <li>東京都制施行により「東京都立第二高等女学校」と改称(7月)</li> <li>3、4年生共同印刷に勤労働員(7月)</li> </ul>	
昭和19年(1944) 昭和20年(1945)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒動員体制、額田校長榮転、石野悌校長就任(2月)</li> <li>文部省、9月中旬までに全学校の授業再開を通牒する(8月)</li> <li>文部省、学校報国際を解体し、自治的校友会に再編するよう通牒す(9月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B29約130機、東京を大空襲。(3月)</li> <li>広島・長崎に原爆投下。ポツダム宣言受諾を決定。天皇、「終戦」の詔勅放送。(8月)</li> <li>日本国憲法公布(11月)</li> </ul>
昭和21年(1946)	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生復活、希望者4年卒業(2月)</li> <li>中等教育令 勅令第102号(修業年限5年)(4月)</li> <li>後援会設立総会。校章発布(6月)</li> <li>師範70周年・高女46周年記念大運動会(10月)</li> <li>新憲法発布記念式挙行(11月)</li> <li>校友会結成式。(この年より、土曜日半日授業になる)(12月)</li> </ul>	
昭和22年(1947)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式挙行せず(4月)</li> <li>新憲法実施記念式挙行。教室大移動(5月)</li> <li>生徒自治会結成(6月)</li> <li>師範との併設関係なくなる。石野悌校長榮転、中路正義校長就任(9月)</li> <li>米軍寄贈図書48冊到着(1月)</li> <li>新制高校設置に関する会議が開かれる(2月)</li> <li>第二高女としての最後の卒業生、2割の生徒が、新制高校3年として引き続き在学。東京都立竹早高等学校となる(3月)</li> <li>これまでの高女4年は新制高校2年に併設中 3年は新制高校1年に進級(4月)</li> <li>新設中を吸収。本校に初めて男子5名入学。(4月)</li> <li>創立50周年記念体育祭を行う。(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基本法・学校教育法公布(3月)(6・3・3・4制を規定)</li> <li>日本国憲法施行 (5月)</li> <li>新制高等学校(全日制・定時制)発足する(4月)</li> </ul>
昭和23年(1948)		
昭和24年(1949)		

年号	本校の動向	社会の動向
昭和25年(1950) 昭和26年(1951)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校卒業生を含む、独立したスポーツ団体「竹早クラブ」結成。(1月)</li> <li>旧制中等学校廃止(3月)</li> <li>終礼廃止。(6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮戦争勃発(～昭和28.7)(6月)</li> </ul>
昭和29年(1954) 昭和30年(1955) 昭和32年(1957)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立55周年記念大運動会。秋開催の行事を、初めて春に行う。(5月)</li> <li>学芸大附属・本校校舎問題打ち合わせ。体育館使用につき、附属中と打合せ。(4月)</li> <li>小平農園売却の動き。都庁教育庁陳情。隣地300坪の6教室増設のための追加予算について。(6月)</li> <li>第7回補修開講式。(10月)</li> <li>買収予定地につき施設課??? (11月)</li> <li>*2期制をとっていたため、秋休みがある。</li> <li>*学芸大附属中と、授業時間、プール使用に関する打ち合わせが多く行われる。</li> </ul>	
昭和33年(1958) 昭和35年(1960)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立60周年。(11月)</li> <li>八ヶ岳寮落成式。(12月)</li> <li>八ヶ岳寮を各学年が宿泊旅行に使用するようになる。</li> <li>校舎3階補修工事に関し、施設2課員来校。プール浄化装置落成。費用は附属中が負担。(6月)</li> <li>ポンプ故障し、上下水道とも使用不可能になるが、4日には修理完了。(7月)</li> <li>敷地拡張に伴い、本校住所表示変更。(東京都文京区小石川4丁目2番1号)7日から3階補修工事。(8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京オリンピック大会。(10月)</li> </ul>
昭和37年(1962) 昭和39年(1964)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校群制度による都立高校入学者選抜実施される。(2月)</li> <li>新校舎設計に関し、打ち合わせが行われる。(5月)</li> <li>新校舎図面設計入札。(7月)</li> <li>本年度校舎新設工事入札。(10月)</li> <li>新校舎起工式。新校舎杭打工事着工。校門片側取り壊し。(11月)</li> <li>新校舎教室図面最終点検。(2月)</li> </ul>	
昭和42年(1967) 昭和43年(1968)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校群制度による都立高校入学者選抜実施される。(2月)</li> <li>新校舎設計に関し、打ち合わせが行われる。(5月)</li> <li>新校舎図面設計入札。(7月)</li> <li>本年度校舎新設工事入札。(10月)</li> <li>新校舎起工式。新校舎杭打工事着工。校門片側取り壊し。(11月)</li> <li>新校舎教室図面最終点検。(2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アポロ11号月面着陸、人類初めて月面に立つ。(7月)</li> </ul>
昭和44年(1969)		
昭和45年(1970)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新校舎への移転作業。(6月)</li> </ul>	
昭和47年(1972) 昭和52年(1977)		<ul style="list-style-type: none"> <li>第11回冬季五輪札幌大会。(2月)</li> <li>大学入試センター設置。(5月)</li> </ul>
昭和54年(1979)	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰国学級に伴う、校舎増築。</li> <li>体育館ビロティエーの格技室化の具体化。(12月)</li> <li>次年度より帰国子女の受け入れが具体化。</li> <li>帰国生受け入れ開始。(9月)</li> <li>帰国学級に伴う、校舎増築開始。</li> <li>帰国生徒学級諸設備完成記念会。(3月)</li> <li>グラウンド金網かさ上げ工事。</li> <li>学芸大跡地、教育長名で学大に正式文書提出。</li> <li>画廊コーナー設置。</li> <li>夏休休暇中、体育館床を改修し、木造床に。室内履きの統一。</li> <li>学芸大跡地利用計画委員会設置。</li> <li>創立85周年記念行事準備委員会設置。決定。</li> <li>東京学芸大学学生寮敷地取得。</li> <li>学芸大寮跡地利用計画が進行し、同年内に取り壊し。(4月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立大学入試の共通一次学力試験、初めて実施される。(受験者32万7千人)(1月)</li> </ul>
昭和55年(1980) 昭和57年(1982)		<ul style="list-style-type: none"> <li>都教委、学校群制度に代えて、グループ選抜、5教科制を実施。(2月)</li> </ul>
昭和59年(1984)		
昭和60年(1985)		
昭和61年(1986)		<ul style="list-style-type: none"> <li>ソ連チェルノブイリ原発事故。(4月)</li> <li>共通一次試験が5教科7科目から、5教科5科目に変更される。(7月)</li> <li>大学入試が複数受験制となる。</li> </ul>
昭和62年(1987) 昭和63年(1988)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸大跡地に防球ネット設置。(6月)</li> <li>校舎改築工事決定。校舎改築プラン作成委員会設置。(2月)</li> <li>創立90周年記念準備委員会・紀要編集委員会の設立提案。(6月)</li> <li>パソコン導入比較表。(11月)</li> </ul>	
平成元年(1989)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立90周年記念式典 新校舎設計完了(11月)</li> <li>埋蔵物発掘調査開始。(12月)</li> </ul>	
平成2年(1990)	<ul style="list-style-type: none"> <li>濱和廣校長定年退職(3月) 杉内重信校長着任。(4月)</li> <li>体育会・部室棟解体。(9月)</li> <li>新校舎第1期工事着工。(12月)</li> </ul>	
平成4年(1992) 平成5年(1993)	<ul style="list-style-type: none"> <li>杉内重信校長定年退職(3月) 金井忠雄校長着任。(4月)</li> <li>新校舎第1期工事完了、校舎棟・プール竣工。(2月)</li> <li>新校舎へ移転。(3月)</li> <li>旧校舎・定時制給食棟解体。(8月)</li> <li>新校舎第2期工事着工。(10月)</li> </ul>	
平成6年(1994) 平成8年(1996)	<ul style="list-style-type: none"> <li>金井忠雄校長定年退職。(3月) 筒井利行校長着任。(4月)</li> <li>新校舎第2期工事完了。体育館、グラウンド、芸術棟竣工。(2月)</li> <li>新体育館、芸術棟使用開始。定時制課程閉校。(3月)</li> <li>校舎落成記念式典。(11月)</li> </ul>	
平成9年(1997) 平成10年(1998)	<ul style="list-style-type: none"> <li>百周年記念事業実行委員会発足。</li> <li>筒井利行校長定年退職。(3月)</li> <li>中込勝英校長着任。男女混合名表使用開始(第1学年のみ) (4月)</li> </ul>	

# 思い出の先生がた

## 小倉遊亀先生の芸術へ誘う

稲葉 良子(高女40回生紅組)



小倉遊亀先生

日本画壇を代表する小倉遊亀画伯は、百六歳を迎え、いままなお絵画創作に意欲を燃やし続けておられることを仄聞するにつけ、畏敬の念をさらに深めるばかりです。

一九三八年(昭和十三年)溝上遊亀先生は、東京府立第二高等女学校と東京府女子師範学校に図画教師として就任されました。勿論、奈良女子高等師範学校(現・奈良女子大)国語漢文部を総代で卒業、同時に図画中等教員免許を取得され、昭和七年女性初の日本美術院同人に推挙されておられます。

溝上先生が私達四年生に教えていただく日本画は私達を五年間担任された柏木綱先生が奈良女高師の後輩にあられることから楽しい授業です。箆に入れた葡萄の絵を一年がかりで布に描き上げるのです。春に始まり、年間入手がしにくい葡萄の買い求めにみな一生懸命でした。

授業中に先生が私達の絵を椅子に掛けて直されず。後ろに廻って見ている私達の視線が自然に

絵から逸れ、和服を召された先生のふっくらした白い襟元に移るのです。そして、十字架を下げる金の鎖をかけた美しい肌が夢の世界を彷彿させました。

ところがその年の十二月、四十三歳の溝上先生が三十歳の年令差の話題を越え精神修養に専念するため禅徒小倉鉄樹と結婚され、二十二年間の教員生活に終止符を打つことになったのです。僅か一年でお別れすることになった私達の失意にやがてもたらされた朗報は、一旦は絵筆を折ると決意した小倉遊亀先生が「浴女其の一」、「浴女其の二」の傑作を生み出されたのです。私達はその第二十五回、第二十六回院展に駆け付け、浴槽のゆがんだタイルの清潔感と裸女湯上りの装いに魅了された。さらに、暗い戦争の雰囲気からの解放感と日本女性の品格と健康的な生活感をそなえた傑作ともいわれたのです。

以来私達は、厳格な雰囲気をもった院展などの会場で懐かしく作品を拝見させていただいております。昭和二十二年、敗戦の混乱した状況の中で、一つの道に励む貴さを先生は名作「磨針峠」で導かれました。昭和四十一年作のお釈迦さまに懸命に睨いてゆく修行僧の姿「怪」は、愛情、無心、余念なくとの先生のお言葉と爽やかな空気私達を誘います。

一九八〇年(昭和五十五年)小倉遊亀画伯は文化勲章を授章されました。北鎌倉(山の内)のお

自宅へお祝にお伺いした柏木綱先生と私を満面笑顔で迎えた先生は、早速画室衣に勲章をかけ写真を撮らせてくださいました。その写真を使わせていただきました。

「自然や対象にさわりなく、すつと人つてゆくこと、そして生のままやってゆくこと」とのお言葉、今春私は五人展を催すにあたりあらためて日本美術院理事長小倉遊亀画伯の八十数年の画業制約から離れた自由な菩薩を感じさせられていると申し上げおわります。

## 金栗先生の思い出

神谷 美喜子(高女31回生甲組)



金栗三三先生(大正12年当時)

大正十五年四月入学の私達は、その日の入学式の講堂で担任は高木ミツ先生と金栗三三先生との発表があった時の在校生

のどよめきを今でも思い出す方もあるかと思いません。静かな御年配の高木先生と金栗先生の御取り合わせを羨んで下さったように思えました。高所から静かに眺めておいでの高木先生とお元氣な澁刺とした金栗先生の御取り合わせでした。私共のようなお転婆は朝早くに登校。一時間も前からテニスコートで占領しておりました時に当時のお若い金栗先生、上山先生、三浦先生方は私共の相手をして下さいました。足が大事と下校の時には校

## 私と竹早高校

宮尾 幾夫(数学昭和28年、昭和54年)



私は今年82歳になるが、これまで唯一筋に数学と共に歩んで来た。昭和17年2月より21年5月までの四年四ヶ月は、太平洋戦争の為に生命を国家に捧げ、主として豪北方面で軍務に服し、生あって内地に復員した。戦前は私のような高等師範卒業生には受験を認めなかった東大(旧制)理学部数学科に昭和24年に受験。合格。その後3年間優秀な学友と共に私は遅時ながら本場の数学の勉強をすることが出来たのは、戦争がくれたせめてもの贈物だったような気がする。併し Abel Galois のような天分のない身にとって、戦争の為の空白は致命的で、数学者としては所詮落伍者ではあるが、竹早高校で数学一筋に勤めさせて頂いて、退職後も数学を楽しませて頂く身を感じている。

私が竹早にお世話になったのは昭和28年から定年退職する昭和54年までの26年間であるが、ここで知性にあふれた生徒と共に暮し、教育者としての愉悅を味わわせて頂き、数学者としての落伍者の悲哀も大いに和らげられた。かつてある卒業生から次のような内容の手紙を貰ったことがある。「先生の補習は、実にすばらしかった。予習で私が2時間もかけてやっと解いた問題を、先生はあっという間に解いてしまっ。しかもその解答の

エレガントなること...かくてすばらしい補習も私にとっては溜息のつき通しであったけれども...」今でも卒業生から「先生に数学を習って本当に良かった」等の手紙を頂く、全く教師冥利につきる感じがする。

併しこの26年の間には、あの三大新聞に書き立てられたような学校紛争事件があり、私もこの為に一時健康を害したが、これを乗り越えようと流石に竹早高校である。雨降って地固まるというか、以前にも増して立派な高校になったことを確信している。

数学以外の思い出は、生徒と共に蝶岳、西穂高、立山等の日本アルプスに登ったこと、東京オリンピックの時は授業を午前中で打ち切り、午後からは家庭でテレビ観戦させて、他校からうらやましがられたこと、更に退職の数年前に生徒との親善柔道大会に出場して、特別敢闘賞を頂いたこと等、皆懐かしい思い出である。

要するに竹早は私の心のふるさとであり、ここで26年間数学一筋に勤めさせて頂いたことを誇りとしていく。

「竹早よ、永久に栄えあれ!!」

表現は月並であるが、私は心から祈ってやまない。



## 竹早高校の思い出

藤原 澄子 (家庭科・昭和31年～昭和54年)



竹早高校は古い奥ゆかしい伝統に輝く学校で、お互いに学校を大切に過ごしておられる様子が、私にとっては、とても奥深く感じられました。こういう所がこれからも語りつがれて続いていくのだなということは何時私を感じ、これからも皆さんで大切にしてゆかれるように思っておりました。そして、学習を自分なりにきちんとなさり、それが積み積って素晴らしい校風を大切にしているということは何時も感じておりました。

教師になって男子の生徒も教えて見たいと思っていたところ、竹早では男女組のホームルームを持たせて下さったので、やはり男女級に於て、いろいろのことを学んだ方がよいと思いましたが、ホームルームでも一致協力して級を良くしていくという考えを見ることも出来たし、男子は女子から、女子は男子から違った雰囲気を感じることが出来、とても良かったと思います。

家庭科も男女共に学んだ方が良かったのに、その機会に恵まれなかったのが残念。しかし私がいなくなつてからの時代に於ては、共に学ぶ機会もあり、お互いにプラスであったと思います。やはり性の違う者同志の考え方などをお互いに交換し

あつてより良い人間関係を作り、お互いにより良い幅のある成長を遂げ、立派な成人になることがより望ましいことであり、人間の成長にもより良い影響があつたのではないかと思います。

私はあまりお役に立てなかつたのですが、こういう進学校での家庭科のあり方をどうしたらよいか考えることができて、家庭クラブ活動も生徒と話しあつていろいろ活動させて頂いたことが今でも心に浮かび、委員の方々のお話し等思い出しております。竹早では楽しい毎日でした。ありがとうございました。



## 名門竹早高校は私の誇り

大竹 協子 (英語・昭和47年～平成4年)



昭和45年から46年にかけて都立高校の大半が高校紛争で荒れた。私の勤務していた大山高校も例外ではなかつたし、竹早高校はその中でも特別な理由で最も荒れた高校であつた。47年の初めにはもうそれも大体収まっていたが、私はもう大山高校で教え続ける気は無かつた。もし転勤できなければ教師をや

めようと思つていたので、竹早高校に転動できたのは本当に幸運であつた。竹早高校では紛争に関わつた先生たちの多くがもう転動か退職して、紛争後2度目の異動では校長初め数人の教師が竹早に転動したように記憶している。生徒会宣言というものがあつて、先生が生徒に遠慮しているような雰囲気があり、「まだまだたいへんな学校なのだ」と改めて身の引き締まる思いであつた。また普通なら職員の新入会は職員全員で行われるのだがその年は迎えてくれる職員と迎えてもらう私たちが同数であつた。その前年は歓迎会が行われず、その時入った職員の方々が自分たちの辛かつた思いからやつて下さつたのであつた。しかし、校長の努力で次の年には全員で歓迎会を開くまでになつた。それほどに職員間の信頼が回復したということである。先生たちと生徒たちの信頼関係も徐々に復活し、竹早は紛争前と同じく名門校になつた。私は英語の授業はほとんど英語でやつたのだが、生徒たちはきちんとついてきたし、こちらの高度な要求にも応えてくれた。後になって「先生の英語が聞き取れなくて英会話の学校に通つた」と聞いたことがあつた。「自分たちに判るようなやさしい授業をせよ」というのではなく判らないのは自分の力が足りないからだ、と努力をした生徒たちは何とすばらしい生徒たちだつたのだろう。文化祭の準備も前日の午後だけで立派にやつたし、昭和54・55年ごろから行われるようになった体育祭も予行無しで本番を実に見事にやつたし、本当にすごい力を持つた

生徒たちであつた。その後竹早もずいぶん変わつてしまつたが、私も最後の数年は昔を懐かしむことが多かつたが、今でも竹早高校は都立の名門校であり、卒業生たちの多くは活躍しているし、竹早の教員であつたという事は私の誇りである。

## 対談・金子史郎先生



地学・物理でユニークな風貌と授業で懐かしく思われる方々も多いと思われ、金子史郎先生に対談形式で取材させて頂きました。

失礼ですが、先生はおいくつになられたのでしょうか？

『現在六十六才になり、家でプ。プ。プ。しているので奥さんに邪魔にされていますよ』(笑い)

竹早には何年位、奉職されていらしたのでしょうか？

『竹早の前に3校を足掛け7年程、竹早高校に約21年、その後都立両国高校に約10年奉職しました。』

ざつぱらにお聞き致しますが、先生の旧名「オメガ」の由来についてお聞かせ願えますか？

『最初の授業の時、当時授業も地学・物理を掛

け持ちで担当して居りましたので、ギリシヤ文字で「オメガ」が出てきてから私の事を「オメガ」と呼ぶようになったみたいですね。

本当にお久しぶりにお会いしましたが、先生は相変わらずスマートですね。先生の印象ですと髪の毛を中央から分け、しかもカールしているの思い出しますが、それは私が無精だから、あまり床屋へ行かなかつたからです。』

先生と言えは授業では白衣でベルが鳴るとすぐ現われ、淡々と授業に入る、という印象が残っていますが、白衣は支給だったのでしょうか？

『最初は自前。洗濯しないものだから段々汚れて来てネ。その後支給になつたと思いますよ。』

先生は、お酒は飲まれるのでしょうか？

『そんなに量を飲む方でもないのですが、夏はワイスキー、冬は日本酒で、一升瓶で約二十日程持つてはいかがでしょうか。』

『私なんかそんなに目立つ教師ではないですし、人付き合いが良い方でもないのですが、強いて言えば、昭和47年の卒業生は、私が担任だった事もあり、クラス会にも時々お呼びが掛りますね。紛争の事は避けませんが、私自身、教職員の

間でもそんなに重要視されていなかったんです。が、ある時、進路指導主任を任されたんです。竹早の生徒は優秀であつたから、大過なく終了する事が出来ました。それと、特に印象に残っているのは、困窮部の顧問をしていた昭和53年の全国大会、第二回大会と記憶していますが、団体の部で準優勝しました。出雲高校に接戦の末、破れてネ。非常に無念であつた事が、脳裏に焼き付いてますネ。』

短い時間でしたが、色々有難うございました。これからもどうか健康に気を付けられて下さい。

時の流れは大きく現役時代の面影はそのままですが、体が一回り小さくなられました金子先生でした。先生は大宮にお住まいです。対談は大宮駅のカフェテリアでさせて頂きました。

(渡辺信博・高校22年生)



# 「竹早」はいま

出席者 II 高橋拓子 (3A)・海老原寛人 (3A)・板倉貴文 (3E)・吉田明日香 (2B)・稲垣聡之 (2E)  
樋口陽香 (2C)・松尾久 (2B)・鈴木あい (1D)・能村理一 (1B)・山之内知佳 (1C) (発言順)  
司会者 II 山廣俊雄 (高校7回生編集委員)・駒見宗信 (高校9回生編集委員)

## 「竹早」を選んだ理由

司会 はじめに、皆さんなぜ竹早を選んだのか、その理由からお聞きしたいと思います。最初に、3年生の高橋さんからお願ひします。  
高橋 私がこの学校を選んだ理由の一つは、前身が女学校だったことです。



海老原 ぼくが志望した理由は、あまり良い言い方ではないですが、私立に行く勉強ばかりに力が入って自由がなさそうで、都立の方が自由がありそうに思えたことと、先輩が竹早に来ていたこととあつて選びました。

相田 私は9月に文化祭を見に来て、とても雰囲気良かったことと、先輩達も仲が良さそうだった。もうここしかないと思つて竹早を志望しました。

板倉 都立高校は学費が安いことが第一の理由で、第二の理由は、学校見学に来たとき、いい雰囲気だったので、ここに決めました。

吉田 私は、はじめから都立高校に行くことが第一志望だったこともありましたが、やはり、学校見学のときに雰囲気良かったので、ここを受験しました。



稲垣 学校見学に来たとき、校舎がきれいですごく気に入ったことと、中学の僕の成績では、竹早はレベルが高いのでどうかと思つたんですが、それでも頑張れば入れるのではないかと、竹早を目標に勉強しました。

樋口 見学に来たとき、大へん校舎がきれいなのにまず驚いて、先輩から話を聞いて竹早はすごく自由な学校だけど、それでも勉強に対しては厳しい。けれどものびのびと勉強できるよ、といわれて、竹早を受験することになりました。

松尾 僕はイギリスからの帰国子女なので、2年前の9月にこの竹早と都立国際の2校を志望しましたが、都立国際はとも女子が多く

て、自分には合わないような気がしたので、竹早を優先しました。それから、ちょうど球技大会が見学できてとても楽しそうだったので、この学校に決めました。



鈴木 私の場合は、三つ年上の先輩が竹早にいて、その先輩から竹早は自由で楽しい学校だと聞いていたことが、選んだ理由の一つです。もう一つは、私はドイツ語に興味があつて、竹早ではドイツ語やフランス語が学べるということにひかれて、この学校を選びました。

能村 竹早は第一志望でなく、同じ学区の別の都立高校だったんですが、僕は作文が苦手なで、「そんな作文では落ちるぞ」と先生にいわれて、一般の試験でも無理なので、どこか推薦で思つていました。それで、竹早の推薦試験を受けたら受かっちゃったので、竹早に来ました。(笑い)

山之内 私は、中学2年生のときオーストラ

リアから日本に帰ってきて、受験のときまず姉からこの学校を薦められました。また、先生方からもあなたの性格なら竹早が良いのではないかと、といわれてこの学校に決めました。

## 〈註〉推薦試験制度について

現在、入学希望者の20パーセントぐらいを推薦入学によって受け入れている。ただし、選考基準は大へん厳しく、極端なことをいえば、中学での成績が「オール5」に近い成績をとっていないと入学することが難しい。この制度の目的は、普段良く勉強しているが、受験となると日頃の実力が発揮できない生徒や、帰国子女の受け入れのために設けられたものである。一回の選抜試験だけでなく、いろいろな方法で生徒に門戸を開き、試験制度の多様化を図っている。



## 「授業」や「部活」に取り組む中で

司会 皆さんはこうして竹早に入学して、短い人では1年、長い人では3年間、この竹早で学校生活を送ったわけですが、普段の授業や部活を通して思うこと、学校に希望することなどを聞かせてください。

山之内 演劇部・写真部・ソフトテニス部に入っています。

司会 三つも部活をしていると毎日が忙しいでしょう。部活が重なることもあつて。



山之内 日にちがずれていきますので、それほどありません。演劇部で公演がある場合は、ほかの部活は休みますが、それ以外の日は、6時までが部活の制限時間です。勉強する時間もちゃんとありますよ。(笑い)

海老原 僕は1年生のときの文化祭で、クラスの出し物として有志で映画をつくりました。それが一番の思い出です。竹早での3年間は、自分の期待にそつた学校生活であつたといえます。



板倉 一番印象に残っていることといえば、やはり海老原君と同じ文化祭でした。皆で力を合わせて一つのことをやり遂げたことは、大へん楽しい思い出になりました。勉強といえは、はつきりいって、中学のときより大分楽でした。一夜漬けでなんとかなってしまう教科が大部分で、楽かなといった感じです。

高校生活で困つたことといえば、パン屋が種類も少ないし値段も高い。学生でお金もあまりもつていないので、もう少し良心的にやつてもらいたかった。(笑い)



相田 私は3年間の毎日が楽しくて、そういったことといえば、毎日が思い出だといえます。強いていえば、沖繩にいった修学旅行が楽しい思い出です。

勉強のほうは、1年生のとき最初の数学の授業で、いきなり5枚ものプリントが配られて驚かされたんですが、そのときは、中学3年の春休みに出された応用問題に近かつたので何とかやりましたが、竹早で頑張らないといっているかと思つて、1年生のときは予習をかなりしました。しかし、2年生になつてからは、英語などは当たるちよつと前に、その部分をやればよかった、ずるがしこいことを覚えて、3年の受験のときになって後悔しています。

部活はソフトテニス部に入りましたが、1年生のときは夏合宿もあつて楽しかったんですが、2年生のときは部員が減つてしまつて、合宿もなくなつてしまいました。



高橋 私は中学のときから竹早に行きたかつたので、念願がかなつて毎日が楽しい高校生活でした。1年生のときは数学が苦手でしたが、大学は理系に行きたいと思つて、3年生になつて選択で生物・化学といった自然科学系の勉強ができたことが、良かったと思つています。

大変だったことは、生徒会活動をやっている中で、竹早生は自主性があまりなくて、頼まれたことはちゃんとやるが、自らは積極的にやらないので、いろいろやってみたらとき大へん苦労しました。会長をやっていましたので、挨拶のための文章を考える機会が多く、それが入試のときに大へん役立ちました。



**司会** それでは次に現生徒会長の松尾君をお願いします。

**松尾** 僕は中学まで外国でいたので、文化祭や部活といったものは全く経験がありませんでした。それで、竹早に入って皆で一緒にやる文化祭や、部活動で合宿することが珍しく感じました。ただこの学校に入って、生徒全体に積極性があまり感じられないのが、一番気になる場所です。

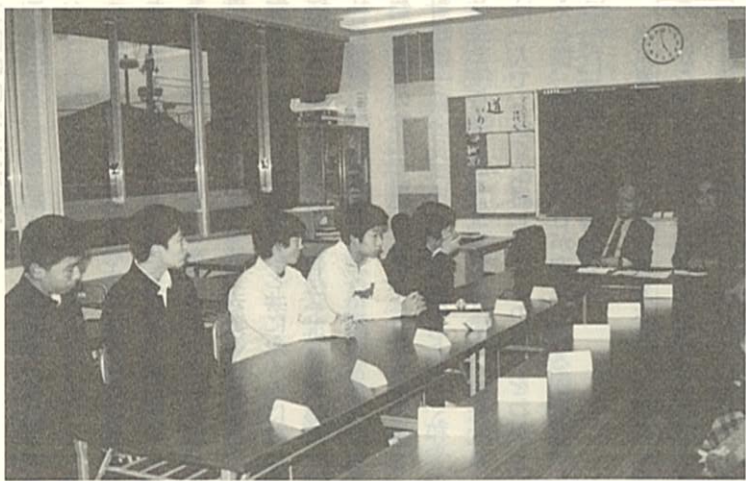
**司会** 松尾君は、イギリスからの帰国生だということですが、中学や高校で日本とイギリスとは基本的に「違うな」と思えるところはどこあった点でしょうか。

**松尾** イギリスでは、公立の現地校に入っていたんですが、基本的に日本の学生と違う点は、個人主義というか、自分のことは自分でやる。自分がやりたいことがあれば、自分ではじめる。また、疑問があればまず自分で行動して、自分で発見することが求められる点で、日本と大きな違いだと思います。

日本では、文化祭は全員が参加して協力してやるものだと思うんですが、参加しない人が結構いて、疑問をもったことがあります。生活が送られて幸せです。こういった校風というか、生徒たちのカラーというか「すばらしい学校だなあ」と、いましみじみと感じています。(笑い)



**能村** 中学のときは、ダラダラとした生活を送って後悔したので、高校ではしっかりとした生活を送ろうと思って、バスケット部に入りました。中学での経験者が多く、それに比べて自分は体力も技術的な面



**司会** 文化祭のような、学校全体でやる行事というのは外国の学校でもありますか。

**松尾** 体育祭のようなものはありましたが、文化祭といったものは、日本独特のものだと思います。

**司会** 同じく、帰国子女である山之内さんの場合はどうでしたか。

**山之内** 私はオーストラリアに、小学2年から中学1年までいましたが、日本人学校にいましたので、日本とあまり変わらないと思います。文化祭といっても、人数が少ないこともありますが、学校全員だけでなく、現地の学校の人たちも招いて、自分たちの学校はこういうことをやっていますといった、交流会のようなことをしていました。

ただ、小学校2年生のときからオーストラリアにいましたので、帰国してまもない頃は、日本語がすぐに出来なくて、靴下をソックスと書いて「かぶれ野郎」といわれて、いじめられたことが中学ではありました。竹早ではそういったことは、全くありませんが。

**司会** 生徒会副会長の稲垣君は、学校生活をどうとらえていますか。

**稲垣** やはり僕も、文化祭が印象に残っています。いま松尾君もいったように、協力する人とならない人に分かれていますが、協力した人たちの間に、すごい団結心と信頼感が生まれたことは、良いことだったと思います。

1年生のときはあまり勉強しませんでした。2年生になってからは勉強するようになりまし。というのも、担任の古典の先生がすごく厳しく怖い先生で、僕は理系のクラスで、文系にあまり力を入れていなかったんですが、先生に

も劣って、面白くないと思ったこともありましたが、自分が決めたことなので頑張っています。いまは楽しくやっています。

**後輩たちに望むこと**

**司会** 3年生の皆さんはあと2か月余りで竹早を卒業するわけですが、最後に、これだけは学校にいつておきたい(笑い)ことや、後輩たちにのぞむことがありましたら、聞かせてください。

**高橋** 私は竹早にとっても入りたかったので、毎日が楽しく充実した学校を送ることができましたが、先生方が、よく「竹早生としての誇りをもて」といわれますが、こういった言葉を何気なく聞くのではなく、自分が竹早にきて勉強しているのだという自覚をもてば、毎日が充実して学校に対する愛着も生まれてくると思います。

**海老原** いま、いろいろと活動しようと思えば、活動できる状況にあると思うんです。また先生方も応援してくれると思うので、1・2年生の頃から積極的に動いて、竹早を良くしていくよう頑張っています。

**相田** 竹早生もまたそうでない人も、この学校は「良い学校だ」というイメージが強い。いつまでも、こういったイメージを続けてほしいと思います。それから、特に、1年生にいつておきたいことですが、高校の3年間は本当に早いもので、すぐに3年の受験期を迎えてしまうので、後悔しないような高校生活を送ってほしいと思います。

**板倉** 竹早生というよりも、高校生として3

怒られるのがいやで勉強しているうちに、先生の良さもわかってきて、古典が好きになりました。



**吉田** いま私は、JRC(青少年赤十字)でボランティア活動をしています。中学ではこういったクラブがありました。この竹早ではなかったのですが、昨年、JRC部をつくって、今年から本格的に活動をはじめたいです。これからもずっと続けたいと思っています。

**樋口** 私は生徒会で予算委員をやっています。一時、プレッシャーで止めたことがありましたが、いまは再度、担当しています。予算が少ないので、各部に割り当てるのが大へんです。

**司会** 各部から、これだけの予算が欲しいといった要望は出てきますか。



**樋口** その点は竹早生のいいところで、(笑い)無関心なんです。自分たちの部はこれだけ欲しいとか、何に使うかといったことがなく、予算を割り当てると、「はい、そうですか」といって、受け入れてくれます。意見とかクレームがありませんので、やり易いといえ、やり易いですが。

**鈴木** 竹早に入ってから、毎日が楽しくてしかたがありません。確かに、文化祭も体育祭も良い思い出なんです。それよりも、先輩や同年代の人たちに人間的に見て良い人が多く、そういう人たちの影響を受けて、伸び伸びとした高校

年間を振り返ったとき、「良かったなあ」という思い出がいっぱいあるような、高校生活を送ってほしいと思う。

**司会** ここで、座談会を終了させていただきますが、今後もいろいろな方たちで、卒業生と在校生との意見の交換の場がもてればと考えております。長時間ありがとうございました。(平成12年1月20日竹早高校にて収録 文責・駒見)



## 11000年を迎えて

関西算会会長 河合 道子 (高校3回生)

母校創立百周年を迎える本年は世紀の節目でもあり誠に印象深く、同じ様に百年前の皆様方もきつと志を新たに新しい日々をスタートなされた事と思えます。記念の出版事業、式典等担当役員方の御努力と会員諸氏の御支援と共に永く心に残る事柄です。関西算会は昨年九月二十六日京都八坂神社常盤殿にて総会を開催、宮司真弓常忠氏の祇園祭と京都の文化の講話、東京より清水愛子理事、対崎俊一副会長両氏の御出席等で楽しく和やかな会を持ちました。今年の東京総会、記念式典には一人でも多く出席し共にこの喜びをわかち合える様、無事にその日が迎えられる様祈念致します。

東京算会が御苦心の末蒐集された大部の会報の中から関西に関する記事を坂原富美代先生がコピーされたのを拝読。それにより会が大正五年に初会合、以後大戦中の休会を併せ延々八十五年の歳月を続けて参った事を知りました。先輩諸姉の深い想い御努力に心より敬意と感謝を捧げます。今後も次世代へ確実に引き継いで参りたく、会員皆様方の一層の御支援を心よりお願い致します。

今年度関西算会は場所を芦屋へ移し、十月一日午前十一時〜午後三時JR芦屋駅前ホテル竹園で開きます。六甲山の緑の地へお運び下さい。新世紀へ向け皆様の御健勝御発展を祈ります。

## 湘南算会

湘南算会会長 松本 紀子 (高女41回生)

有史以来、人類が二回しか経験していない千年に一度の記念すべき年を迎え、感慨無量のものがあります。

新しい千年紀が、どんなに科学万能の時代になっても、私達は人間としての理想と価値観を求め、人々との絆を大切な生き甲斐としたいと思えます。平成十一年、湘南算会は六月三十日鎌倉プリンスホテルで行われました。あいにく当日は朝から激しい風雨となり、ご欠席が多いのでは、と心配しておりましたが、東京からの六名の方を迎え、四十六名、定刻通りに会場にお着きになり、さすが「竹早魂ここにあり」の思いを深く致しました。

城戸崎会長の現代高校生気質がうかがえる楽しいお話、又竹早高校百周年記念事業委員会委員坂原富美代先生のメッセージを小澤悦様がお読み下さいました。百周年記念行事も具体化され、先生の学校への熱い思いがひしひしと伝わってまいりました。お食事を頂く頃には晴れ渡った七里ガ浜の美しい景色が目前に広がり、なごやかな時を過ごしました。

湘南算会御案内  
とき・平成十二年五月二十日(火)  
午前十一時三十分〜午後三時  
ところ・鎌倉プリンスホテル  
〇四六七三三二二二  
会費・六五〇〇円

## 高女22回生 (大正11年卒)

向坂 ゆき

腰折の中から竹早の思い出をひろって

その二  
今井光先生(英語)

牟寿越え師のみ教えをそのままに

英詩の一節口ずさみをり

きたわれし英語あやしくとつくにの  
ホテルメイドに日本語教ふ

(一九七二年、ホテルメイドに左わられて。  
当時ブルガリアは日本語ブームなりき)  
街並にそび花咲くソフィア行き

オー ビューティフルと  
思はずもいふ

スマラスベリスキートそのかみの  
師の御声いふわれにおどろく

かの君とビットシャの丘に交したる  
わがブロークンのはずかしきかな

(一生にたった一度の外人との英会話。  
結婚以来英語とは全く無縁なりしに)

金栗四三先生(地理)  
オリンピック

地理の時間ははなやぎぬ  
師はマランソンの覇者にあられき

はじめての教え子なりしわがクラス  
「マランソンの若きおまけ

(会員は別に年会費五〇〇円)

連絡先・村上英子幹事まで

〇四六六一四四二二八四三

## 清里高原八ヶ岳寮

(財)竹早会理事長 岩田 隆子 (高校11回生)

百周年記念史の為、恩師小野政吉先生から、設立当初の記録や思いを綴った黄ばんだ原稿用紙の束をいただきました。

青少年の教育にかける先生の熱い思いが彷彿する文章に触れ、前理事長澤登千明を始め、思いを一つにする方々の並々ならぬご努力に因って建設されたのだと改めて胆に銘じました。又この財団の基になった小平農園をご寄付なされた上條秀介氏(高女四十二回小口郁子様、四十四回木内昭子様のご尊父)の無償のご好意に因ることも、広く知って頂きたいと思えます。

清里高原はあかるく、やわらかい光に満ち、心地良い風が吹いています。弾けるような笑い声が林の小道から近ずいてきます。日常から離れ、八ヶ岳寮の一万坪の自然林の遊歩道を散策し、森林浴をたつぷりなさった効用でしょうか、あるいは久しぶりになつかしい友との再開で気持が高揚なさっているからでしょうか、このような、上機嫌な屈託のない笑い声を聞くのも忙しい日常生活では希なことのように思います。緊張ったサーピスも、豪華なしつらえもない、八ヶ岳寮ですが、自分達の場所と安心して頂けるようです。

## 高女25回生 (大正14年卒)

高木 桂子

竹早高校百周年、おめでとございます。

府立第二高女五十名入学の最後のクラス、二十五回生も、はや九十二才。九十才まではなんとか世におくれはとらじと生きてきた私共も、たった二年のうちに弱られた方が多く、昨年は、川越ミワ様が亡くなりました。竹早小から第二へ入った五人のうち、とつとつ私ひとりだけ残りました。お耳が遠くなられて電話の通じない方。代筆の方。施設に入られた方。御からだ不自由な方。かく申す私も、ここ二、二年入院くりかえしましたら脚腰がきかなくなり、家の中も杖つくありさまです。外出も付き添いなしでは思うままにまいるりません。結局一日テレビを見るだけ、新聞は「見出し」くらいは見られるという有様になりました。

しかし九十二才といえば、かなり長寿の方ですから、あまり無理をしないで自然にしたがつて生きるよりほかありません。どうぞ皆様御大切に。

## 高女27回生乙組 (昭和2年卒)

菅 多喜子

算会会報は年に一度のうれしい御便りで委員の方々に感謝申し上げます。

明治四十二、三年生まれの私共は九十才代に入り、人数も減ってここ数年は級会も開かず専ら電話でおしゃべりする位になりましたが、有難い事

に府立第二高女の生活は楽しさ一杯で老いを忘れる思いが致します。

今年はおリンピック年ですが、七十余年前の北歐ヘルシンキの折には地理を教えて頂いた金栗四三先生が御出場なさり、校門まで在校生が歓声をあげて御見送りしました。日本マラソンの師父と仰がれた先生です。又日本体操界の権威でいらした三橋先生御兄弟に体育を教えて頂きました。

年に一度の音楽会は大和田先生や服部先生の御蔭で音楽学校(現芸大)の先生方が来演され、又藤原義江氏のテノールに酔いしれた事などなど。勉強は決して良くなものではありませんでしたが、先生方の御指導と叱咤激励の賜で今はなつかしい思い出でございます。

同級生は多少の御障りを持つても健在の方は八名位で時折は耳の便りでしたのしんでいらつしやいます。長く病床についていらつしやる方、消息不明の方もいらつしやいます。私も整形外科の御世話になっておりますけれど、頂戴した生命と思ひ、日々大切に明かるく過ごしたいと念願しております。

母校創立百年を御慶び申し上げますと共に益々の御発展を御祈り申し上げます。

高女28回生甲組(昭和3年卒)

杉 あさ

今年は一〇〇〇年の記念すべき年、会報が出来たこと御消息を集めました。御健在の方々十七名、市川さん、石田さん、粕谷さん、酒井さん

高女31回生(昭和6年卒)

長津 みち

私共は何時の間にか八十六才となり、何人かの方は既に鬼籍に入りましたが、元気な方も多く去る一月三十一日某鴨の「田村」でクラス会をした時も十一名集まり、楽しく思ひ出話を致しました。

クラスメートの中には現在でも写真の同好会に入っている年回数回フランス等に旅行され今も銀座で展覧会をなさっている方、同級生数名で毎月連句の会を催されている方々、又絵を描いて居られて毎年個展を開いている方等、今尚元気で活躍して居られる方々もあります。又日本の女子テニスのリーダーとして活躍された井上様は今もテニス会の為重要なお仕事を居られます。

同窓の会員方の大先輩として、もし御希望があれば後輩の方々にお目にかかり戦前の竹早校の楽しく有意義だった学園生活の事等お話ししたいと思っております。

尚筆者は目下日本の古典文学の勉強会に月二回、短歌会に一回出席して居ります。幸い足腰が丈夫なので時々古都に旅し、大好きな大伴家持の足跡を尋ねたりして居ります。

高女34回生(昭和9年卒)

牧田 美佐子

今年度の甲組級会は、十一年十一月十一日、と数並びの日に、九段のグラランドパレスで開き

ん、杉浦さん、鈴木さん、田島さん、中田さん、中村さん、福田さん、正木さん、松宮さん、三木さん、百瀬さん、山下さん、吉村さん、そして私・杉もどうやら無事。

中でも正木さんは卓球などをお楽しみになり、小樽、東京へもお出かけという御元氣さ。また百瀬様は、お若い方と共に観劇などをお楽しみ。中村さんはお家を二世帯住宅(御令息との)に御改築なさいました。

- 赤瀬栄子さん 二月二十七日
  - 戸塚敬さん 三月五日
  - 富岡絹子さん 十月一日
- お三人とも御身内の方々の御手厚い御看護をうけられ、御幸せな御一生でいらつしやいました。

高女30回生乙組(昭和5年卒)

相田 れ子

山口春野さんの遺稿集

昨年末に「春野抄」と名付けられた山口春野様の遺稿集が届けられました。それは立派な美しい本でびつくりしました。

四十歳の時、母上を亡くされて独居暮らしが始まりました。三成先生と巡り会い充実した生活もありでしたが、先生を看送られてからは淋しい生活にも慣れてか、独り飄々と過ごしていられました。クラス会も同窓会も良く出席なさいました。

ました。



写真右から、金指、野口、満田、岡、武内、川田、牧田、乙組は六月に、品川の高輪茶寮で開きました。植木、池田、大津、野原、安藤、高橋、土橋、堀井の方々です。

当日は和氣藹々、出席簿順に名前を全部言える記憶力抜群の方も有り、昔話に花が咲きました。



又級の中には、老人向水泳教室で昨年はハワイ、今年はおーストラリアと海外遠征される方も有ります。

只残念な事に毎回御出席の甲組青田様、乙組河西様、江口様が御逝去された事です。心より御冥福をお祈り致します。今年辰年。私共は年女の回生です。皆様大事にして又お会い致しますよう。

高女38回生白組(昭和13年卒)

瓜生田 俊子

西暦二千年を迎えましたが、秋には、母校の創立百周年の式典があることは本当におめでた

いまして、いつも二時間位遅く、会も果てる頃ふらりと入って来ました。大声で話すことも無く、静かににこやかに終り迄居て名残り惜し気にもならず独りで旅立ってしまいました。兄上様の御子息達が手厚い御法要をなさいました。独り淋しくではありませんでした。よかったですね、春野さん。

「春野抄」の中から和歌を少し拾い出しました。みめぐみは吾にあまねし母なくて いかん生きむとわがおもえれど 少女の日 思を寄せし上級生は なほさわやかに英語の教師 その昔バレーボールに名を馳せし 人風爽と老を生きゆく

〔西田先輩の事〕 親しみてやがて離るる淋しさに 堪えがたなくに親しまざりけり 友八十路はらからよりもあたたかく 切なる文をわれにたまわる

頑張るといふ言葉今流行す 頑張らずあせらずあらなと我は念ふに 野の草の生ふるにまかすわが庭は つゆ草の青あかまの紅 昔のままの寄席の畳に近々と 新内聴けば母ぞ恋しき 大いなるものはからひみちみてる この世を生きるこのさきはひは 俳句も詩も心をうつものばかりです。

いことでございます。在籍した五年間を思い出し、感無量です。

二年前の春、久しぶりに紅白合同のクラス回を開き、卒業六十周年と喜寿を祝い合いました。その時お元気な姿を見せて下さった紅組の斎藤加藤さんが昨秋亡くされたことを新聞で知り、御冥福を祈りました。

白組でも高野(骨)さんが亡くされたことを後藤(寺)さんからお聞きして淋しい思いをしました。宋戸(秋山)さんと井上(松崎)さんは未亡人になられ、井上さんは熱海に転居され、お元氣のようです。

プロの画家南(吉田)さんはイタリアに行ったり来たり、宇野(片岡)さんは山岳会、スケッチ絵画展等に出品されています。鹿江(高橋)さんは毎週火曜日の早稲田の勉強を続けていらつしやいます。が、クラスの連絡係になって下さるので助かり、みちのくの菊地さんや西村(中山)さんの消息も分かります、安心していきます。今年八十歳になる人が多いですが、皆健康でいましょう。

高女39回生紅組(昭和14年卒)

四谷 桂子

「十一年度」のクラス回、十四竹会は四月十二日、前年と同じ東中野の「日本閣」で稲見様のお世話で開かれました。昨年より遅いので桜は散ったかなと思っておりましたが、結構美しく立派な灌を眺めながら、美味しい日本料理をいただきま





三十九回卒紅組、会員二十名のうち十三名の方々、稲見様、中村様、四谷様、小金井様、寺田様、谷田様、武井様、高木様、小沢様、関谷様、岩間様、村尾様、森田様 全員相変わらず元気に集まりました。

「ご欠席の方は写真と合わせてご覧になって下さい。終りは例年のように稲見様の首頭で「早春賦」「花」の大合唱になりました。

さて悲しいお知らせですが、大原祥子様、長らくご病氣療養中でしたが、平成十一年七月八日「他界なされました。ご冥福を祈ります。

次のクラス会は四月の予定ですが、皆様くれぐれもお身体に気をつけられ、ぜひ多数出席されま

高女41回生 (昭和16年卒)

河野 かづ子

皆様お元気ですか。

「ミニニアム」(千年紀)の問題点も大過なく越年し、いよいよ「二千年」の幕が上がリ、二十一世紀に一步近づきました。今年、私達、四十一回生の多くは、「喜寿」を迎えます。喜ばしい限りですが、反面、自然も人事も、昨今は思いがけぬ嘆かわしい事が次々に起こり、テレビ

や新聞紙上を賑わわして、驚きに耐えませんが

そして、何時の間にか忍び寄る「我が老い」のたじろぎも、避けて通れぬようです。二千年代はお互いに、自分なりの「色」に日々を染めて、一歩前にと過ごしてまいりましょう。

昨年五月十二日(水)に、赤坂アーク森ビルの「BASARA」でクラス会を開き、出席者二十余名で、美味しい日本料理を堪能して、旧交を暖めました。その折に、四月十一日に、伴板倉芳子様が亡くなられたと伺い、心より御冥福をお祈り致しました。卒業以来、鬼籍に入られた方は二十八名となりました。お互いに、健康第一に、今年もまた春(初夏?)には元気に揃ってクラス会に出席出来ますよう、心から願っております。

高女42回生 (昭和17年卒)

手嶋 (木暮) 實枝子

皆様、一年経ちましたね。七十五才となりました。トシは堂々と言っちゃって、そしてしかもな

お、元気なパワーを見て頂きましょうよ。

(と言っても行き過ぎないように)。



昨年、例年と同じ、一月新年会。二月に南房総へ一泊、お花を眺めたり、マザー牧場で遊んだりでした。六月

にクラス会。皆様の一言スピーチは、「さすが

は第二」(この言葉は、約三年間担任して頂いた故・川上先生が、クラス会にお招きした時に仰有ってくださったもので、以来、他の方の前では言いませんが、私達の間で、冗談っぽく言うこともありすが、身を引きしめるもので「す」と思わせる、種々の御活躍や、ユニークな御意見など、勉強にもなり楽しく聴いて、時には大笑いし乍らでした。

九月頃、昼食会。十一月に吉備路を二泊三日の旅。関谷学校では、すばらしく紅葉した大きな楷の木に感激し、夜、ライトアップされた厳島神社の海に立つ赤い鳥居も美しく印象的でした。十二月に写真交換会という名目で、ほかの方も交えて昼食会でした。いつもはお会い出来ない遠くの方、上京の折、おしらせ下さい。お会いしましょうよ。今年の予定は、五月始め日光へ一泊。六月始めクラス会。十一月南紀へ二泊三日です。

皆様、毎日気を付けましょうね。

高女43回生 (昭和18年卒)

百竹会 新田 美知子

御正月早々に高木美和子さんから電話を頂き、宴会の原稿をよろしくという事で目がさめた様な気持ちで有難う御座いますと御返事をしたものの宴会報の原稿一回もお出した事もないのでお恥ずかしい文ですが、宜しくお願い致します。

毎年同期会は春に行つて居りますが、平成十一

なられて居りました。

高畑昭子様 平成9年10月19日

山本静子様 平成10年7月15日

持田美佐子様 平成11年1月10日

心から「冥福をお祈り致します

高女46回生 (昭和20年卒)

平野 哲子

平成十一年度の若竹会は、十月六日中村淑子様御提案のフランス料理店「ラマージュ」で開催しました。

「ラマージュ」は表参道スパイラルビル五階で空中庭園の眺めがよいレストランです。幸いに天候もよく四十名の御出席でした。

小林幸輔先生は、御体調の関係でおいでになれないのではないかと危ぶまれましたが、御令息夫人で女医のみどり様のお付添いで御出席下さいました。先生は十二月にめでたく米寿を迎えられました。吉田幸子先生は前年めでたく卒寿を迎えられお元気ですが、御健康上大事をとって又御用事もおありになり御欠席でした。先生方のますますの御健康と御長寿をお祈り申し上げます。

クラス会がすみ、小林先生に米寿のお祝に若竹会からムートン敷毛布を、吉田先生に十一月十五日の御誕生祝にお菓子を一折お送りして喜んで戴きました。

皆様明るく思いやりがあり、和やかな楽しいひとときでした。お料理がおいしいと喜んで戴きました。御欠席の方々からもお便りお心くばりを戴

年五月十日椿山荘に集まりました。暖かい日でしたが風が少々ありました。皆さまから喜んで頂いた様で、母校に割合近く御実家や小学校も近くだったとか、まあ二十九名も参集下さつて本当にほつと致しました。

平素御出席下さる方も御家庭の御都合やら体調の良くない方達、七十才を越えると体力が落ちますが、大先輩は御元気でいらつしやるので頭が下がります。祝典は十一月の様ですが、どうぞ御元

気で御目にかかりたいと念じております。次回の同期会は鎌倉に御住いの金子様、金森様、鈴木様、御三方御多忙な中にお願ひ申し上げます。どうぞ不順な陽気が続いて居りますが、御多忙にならぬ様大事に遊ばして元氣なお顔で御目にかかれる事を念じて居ります。

高女44回生 (昭和19年卒)

浜中 智子

平成十一年度のクラス会は、爽やかな秋の訪れを待つて、十月二十二日、恵比寿ガーデンプレイス39階「東天紅」で開催いたしました。この夏は殊の外暑さが厳しかった後遺症でしょうか、二十三人と、例年よりは少人数でしたが、楽しいひとときを過ごすことができました。最初に香り高い桂花酒で、皆様のご健康と再会を祝して乾杯し、女性の好みにあわせさっぱり味の中華料理を楽しみました。あいにくの薄曇りで、地平線は霞んでいましたが、素晴らしい眺望をほしほしにでき、皆様の「消息を伺い、お話しがはずみまし

た。幹事は浅野、堤、浜中で、次年度は久しぶりに名古屋からお戻りになった沢田さん、竹内さんとさせていただきますので、宜しくお願ひ申し上げます。

悲しいお知らせでございますが、昨年十一月二十九日に竹澤英子様が、又本年一月七日には石川

洋子様のご病氣で亡くなられました。明るくお元氣で俳句をよくされ、前文相有馬朗人先生門下でいらした竹澤様、フラダンスのグループでお美しい舞姿を披露していらした石川様、お一人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

高女45回生 (昭和20年卒)

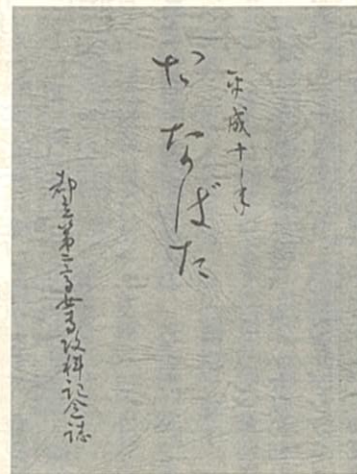
青木 美樹子

平成十一年度の級会は、石塚さん、伊藤さん、小針さん、宮内さんの四人の方達が企画して下さい、十月二日に早稲田のリーガロイヤルホテルで開かれました。

お天氣にも恵まれ、35名の方が集まり、楽しい時を持つことが出来ました。あまり人数が多かったせいか、全員のお顔を一度に見渡すことが出来ない会場だったので、お食事のあと、ロビーで直ぐに二次会のおしゃべりが始まりました。お日からも良かったのか結婚式シーズンの最中でもあったので、何組ものカップルの花嫁さんを見ることが出来ました。若い花嫁さんに負けずに、皆さん元氣に淫刺として二〇〇〇年を迎えることが出来そうだと、来年の再会を約して散会しました。尚平成9年から11年迄の間に次の方々

—専攻科と「たなばた会」—

私たちは太平洋戦争の末期の昭和二十年三月に、「都立第二高等女学校専攻科」を卒業した。そして現在、「たなばた会」と云う名のクラス会を作り、毎年例会を開いている。また平成十年には記念誌を作成した。



この専攻科というのは戦局がきびしくなった昭和十八年四月に、第二高女にそれまでであった花嫁修業を主とした補習科を改編したもので、学業期間は一年であった。

すなわち、私たちの「たなばた会」は専攻科第二回卒業生の会である。専攻科は私たちの卒業を以て昭和二十年に廃された。僅か二年の短い存在であった。しかし専攻科で一年間学んだことは、私たちの人生に大きな影響を及ぼした。今般、百年記念特集号が編まれるに当たり、百年の校史の一駒である専攻科と、その思い出を絆として生

まれた「たなばた会」のことを紹介したいと思う。

戦時下の教員不足への対策として、私たちの入学した昭和十九年四月から、専攻科の卒業生に国民学校（小学校）教員資格が与えられることになった。また第二高女以外の卒業生も入学できることになり、第二高女から十七名、他校から二十一名、計四十八名が入学し、戦争末期の一年間、勉学に、学徒勤労動員に共にいそしんだのである。卒業式は三月十日の東京大空襲のすぐあとの三月二十五日で、私たちは戦争最末期の、本土決戦も予想される混乱と緊迫の社会に送り出されたのであり、多くは教員の道を選んだ。

卒業後四十六年が経った平成三年、私たちの間にクラス会を作ろうという声がおこり、住所も変遷し、連絡するのに困難も伴ったが、根気よい連絡のとり合いからはじまった輪は次第にひろがっていった。そして第一回の会が、平成三年七月に開かれた。その反響はすばらしいものであった。それはその時に寄せられた次のような感想の数々に表われている。

「不安と緊張で出かけたが、その心配は全くなくすぐとけ合うことができた」、「当時にすぐ戻れ夢のような中で喜びが一杯だった」、「心の中から湧き出てくる想い出、なつかしい声、声、声、全く夢のようであった。」

また、「皆が一生懸命生きて時代に困難な体験をわがちであった方々とは特別な絆を感じる。これからも思い出を語り励ましあっていきたいと思う」、「苦難を乗り越えて生きて来てよかった」などな

ど。以後毎年集会を重ねる毎に友情も深まった。その後、七月七日の「たなばた」の頃に会をもつことになり、会の名も「たなばた会」と決めて現在に到っている。

次に「たなばた会」の三名の方の文を載せる。それによって専攻科と「たなばた会」のことをより良く知っていただければ幸いである。

一、「たなばた会」記念誌に寄せた

竹澤英子さん(平成十一年逝去)の文から平成十年、クラス会の席上、会長の西村さんより、「戦時中だったので、母校に私たちが学んだ専攻科の記録が残されていない」とのお話があった。卒業は激動の昭和二十年三月であり、半世紀を経て上、その間、校舎の移転などがあって仕方がない事とは思われるが、私たち卒業生にとつて残念な事である。期間は一年間と短くても思い出深く、国民学校初等科訓導・幼稚園教諭免許状取得により、教員生活を送ることができるようになった方もあり、国の復興の一助にもなったようだ。……

「教員生活を経た後、児童達との美しい思い出、心あたたまる文通や出合いがあり、又七十才のお祝いと当時の生徒達が大きくなってくれたり、教師冥利に尽きると胸がいっぱいになった。これも第二の専攻科で学んだお陰と心から感謝している。

二、戦時下の専攻科に学んで 伊藤けい子

東京が、米国の空襲に備えて疎開騒ぎで揺れて

方位計算をした女学生に役立ったお札を述べたいと長い間探しておられて、戦史研究家の神野氏の「尽力により劇的な出逢いが出来たのであった。再会を約した浪上氏は翌年他界された。皆で心から冥福をお祈りした。激しい時代と共に学んだ私たち、思えば深い縁である。亡き先生や亡き友を偲びつつ残る日々を楽しく、生き生きと暮らしてゆきたいと思う。」



平成6年7月「たなばた会」前列中央右 浪上氏、左 神野氏

三、山村の教員として 青木 和子

私が初めて奉職したのは、富山県西砺波郡東蟹谷村小学校、山村の本当にのどかな学校であった。家を午前六時すぎに出て、おもちゃの様な汽車に乗って二十分、徒歩はその前後を合わせて一時間ようやく学校に着くという通勤であった。一学年一学級、職員九名の小さな学校の二年生の担任、

東京から来た私を子供達は物珍しそうに眺め、私も言葉もわからず戸惑ったが、健康な真赤なほっぺたと仲良くなるのにその時間はからなかった。右手右足、左手左足を一緒に出す子、どうしても音楽のリズムにのれない子など、可愛くて、可愛くて「これが私の希望だったのだ」と熱い胸をときめかせた。

こんな穏やかな学校にも戦争の翳はあり、校舎の半分は陸軍の兵隊に使われていた。疎開先の家の後の寺には東京から学童疎開の児童たちが居て、朝に夕に、「お父さん、お母さん、お早うございませう、お休みなさい」と云う声が聞こえて、遠くを走る汽車のなぜか淋しく聞こえる汽笛と共に胸にしみ、「皆ががんばって」と心の奥で祈ったことを思い出す。教員生活の情熱に燃えていたのも束の間、八月十五日の終戦を迎えた。これから先どうなるのか、どうしてよいのかと言う戸惑いと、もう空襲はないのだと言うほんの少しの安心感が心をよぎり、複雑な感情で見渡す限り緑一面の畑の道を、「国破れて山河あり」とつぶやきながら帰途についた。

二学期からは黒くぬりつぶされた教科書を手にとりただ夢中だった。それでも授業中も放課後も生徒と一しよに居ることが楽しく、家に帰るのが惜しい位であった。短い教員生活を終えて東京へ戻ったが、思い返すと物資もなく、命の危険にもさらされていた時代で、それだけ目的を持って充実した尊い時であったとつくづく思う。

(編集 赤沼・磯田・西村・安井)

(P.31より)

き有難うございました。クラスの皆様の御健康と御幸福をお祈り致します。

次回も皆様方多数御参加下さいませよう期待しております。

**高女49回生・高校2回生(昭和24年・25年卒)**

斎藤 和子

平成十二年度クラス会幹事は一月二十一日に文京区役所25階シビックレストラン椿山荘にて、新年会兼、準備会を致しました。

美味しいお食事をいただきながら、クラス会の段取り等話し合い、以前からお願ひしておきました会場「都ホテル東京」にて六月六日と決定致しました。前回のクラス会も奥山様のお世話で、「都ホテル東京」で催しましたが、その折にお料理も会場も素晴らしい、交通の便も良い、と非常に好評でしたので再度、奥山様にお世話をお願いした次第です。

なお、今回のクラス会は卒業五十周年にも当たりますので、皆様どうぞ多数ご参加下さいまして賑やかな楽しいクラス会に致したいと思っております。

余談になりますが、文京区役所25階展望台からのすばらしい眺望、夕方五時頃沈む夕日をバックに、七色に輝く富士山を見ることができました。神秘的な美しさに幹事一同大感激!! しばし見とれて、その場を動くことができませんでした。皆様も一度ご覧になつては如何ですか。但し一月又は二月が特に美しいようです。

平成十二年度クラス会幹事

奥山 小平 丸山 今村 吉田 井上 斎藤

六月六日のクラス会、お待ちしております。

**高校3回生(昭和26年卒)**

筧燦会 松本 恵美

平成十一年五月十五日に、私共高校三回生の「筧燦会」を目的の「蔵」で開きました。

当日は薄曇りながら初夏の緑が心地良い日で、二十七名もの御出席をいただき幹事はテラスの方にはみ出すという嬉しい悲鳴をあげるほどでした。



卒業以来という方、地方都市を回られて久々に東京へ戻られた方、又嫁として娘として介護を終えられた方等々、久々の出合いに皆様とても楽しそうにお話し合い、笑い合いで、とても和やかな一日となりました。

私共が竹早(当時は都立第二高女)に入学しましたのは、第二次大戦の末期の昭和二十年でした。連日の空襲に、警報が発せられる度に工室の分厚い机の下にもぐり込んで退避しつ、それでも将来の夢などを話し合ったものでした。五月の末には東京はほとんど焼野原となり、終戦を迎えました。

戦中戦後の厳しい時代を、世の中の変革と共に一生懸命に生き抜いて来た私共も、今まさにシニア真盛り。世紀の変わり目という時に当たり、残る人生が、実りあるものであつて欲しいと願いつつ次の幹事さんへ引き継ぎました。

会の残金が大部分多くなりましたのでその中から十万円を、母校の百周年記念事業に寄付させていただきますました。

**高校8回生(昭和31年卒)**

須藤 彰久

創立百周年おめでとつございます。

昭和二十八年希望に満ちて入学した同志の中に、在学中はもとより卒業後も伝統の重みに抵抗を感じて過ごしていた方もあつたようだが、二年前の同窓会担当学年時には過去のこだわりを乗り越え、大変なまとまりをみせて、伝統ある同窓会を盛会裡に終始したことは記憶に新しい所である。

最近同志の中に、自分の趣味を活かして個展を開く人やスポーツを楽しむために仲間を集めて行動している人など、同志の交流が盛んに行なわれているという話をよく耳にする。情報公開がないために、せつかくの企画も交流が図れないのは残念である。そこで、この会報の「エコー」欄を有効に活用してはと提案したい。算会理事に本間宏君が、この会報編集委員に室田(土木) 容子さんが同期の代表として御活躍されており、必ず力になっていただけるものと信じている。大いに自己

PRをして情報提供をしていただきたいと願っている。

さて、同期会も昨年六月に三十一名の参加で、草津温泉での楽しい旅行会が無事終了し、今年には既に御案内してあるように、五月末に安房鴨川での一泊旅行会となっている。この機会に大いに旧交を温めたいものである。

**高校10回生(昭和33年卒)**

高橋 多助

算会百周年記念総会の当番幹事に我々高校十回卒業生が当たっており、昨年(二十一年)六月から、準備の為に会合をほぼ一ヶ月に一回の頻度で開催してきた。

この会合の内、九月は恩田氏の所有する白樺湖のホテル「フラミンゴ」で一泊の会合を、十一月には総会会場として決めた東条会館インペリアルホールで会場の下見を兼ねて忘年会を、また二月に新年会を兼ねた会合を開いた。いずれも二十人以上の参加があり、盛大な会合となった。

当初総会会場として、新築された竹早高校や、貸し会議場やホテルが候補に挙げられ、新しくなった竹早校舎でと言う意見も強かったが、話し合っている内に会場設営や料理の心配、後かたづけ等、また六月という事で学校側の校舎設備の都合に對しての問題等も出てきた。また、百周年という節目でもあり、節約して貧弱な総会にはしたくないと言う意見もあり、ホテル会場を当てることになった。数人で手分けして会場探査を

「キミは、女の子なんだね。」

在校生のとき、健康診断で校医が、私の胸に聴診器をあてると、ピクツと身体が動いてしまう。その感覚を、そう言ったのだった。竹早を卒業してすぐ、三流の私大に行ったあるとき、西武池袋線の江古田駅で雨が降って、かさに入れて送っていった女子高校生が「あがつていきませんか」と言うのであがると、その母親、またはお姉さんだったか、が竹早出身であった。話を交したとき、その大学と感覚が合わないことを、ポロっと口に出してしまった。そのとき「残念ね」と言ってくれた。結局、この大学を中退し、入り直した大学が慶応だった。高校三年のときの担任の塩崎佳子先生には、お世話になった。もう亡くなられたとお聞きした。

**高校18回生(昭和41年卒)**

坂出 準

慶応では、辻村江太郎先生の下で経済学を学んだ。卒業後は、鹿島道路という鹿島建設の子会社に就職して今日に至っている。竹早生との交流は、中央大学理工学部土木工学科教授姫野賢治先生、また、(株)フイカルチャーセンター代表取締役澤登信子様とも出会い、皆様

の発展を心から祈ります。

ミレニアムの今年には、母校も百周年を迎え、記念行事・事業が予定されており、私達22回生もこのような記念すべき年に同期会を開催でき

ますのも、E.S.Sのメンバーを核とした幹事の労を取って頂いている方々のお陰です。改めて感謝の意を表したい。

私達も母校を卒業してから早くも三十年が経ちます。五十路が目前に迫った年代になり、肉体的にもそろそろ健康面、体面での不安や故障を背負ってくるという過言ではありません。それぞれの人生を歩んでいる事と存じますが、仲々お会い出来ません。せめて数年ごとに開かれる同期会には、こぞって参加の程、お願い致します。住所等の変更が存りましたら、左記の方へご連絡下さい。

内山(岩本)真知子 TEL 03・3427・6346  
発地 弘光 TEL 0474・64・3937  
渡辺 信博 TEL 03・3919・3037

**高校22回生(昭和45年)**

渡辺 信博

ミレニアムの今年には、母校も百周年を迎え、記念行事・事業が予定されており、私達22回生もこのような記念すべき年に同期会を開催できますのも、E.S.Sのメンバーを核とした幹事の労を取って頂いている方々のお陰です。改めて感謝の意を表したい。

私達も母校を卒業してから早くも三十年が経ちます。五十路が目前に迫った年代になり、肉体的にもそろそろ健康面、体面での不安や故障を背負ってくるという過言ではありません。それぞれの人生を歩んでいる事と存じますが、仲々お会い出来ません。せめて数年ごとに開かれる同期会には、こぞって参加の程、お願い致します。住所等の変更が存りましたら、左記の方へご連絡下さい。

内山(岩本)真知子 TEL 03・3427・6346  
発地 弘光 TEL 0474・64・3937  
渡辺 信博 TEL 03・3919・3037

**高校27回生(昭和50年卒)**

池田 正一

貧しい人々の住むバラックが街を埋め尽くすアメリカ某国の首都を、朝もやの中出発してからポンコツの車は見渡す限り砂漠の中をあえぎながら進んでいた。砂漠化が進む地球環境の取材で、

目指すはサハラ砂漠に近い小さな村だ。現地ではチャーターした日本製の悪路走破車は、道のうねりには勝てず、大きく左右に揺れる。しかも、三分分の燃料と飲料水を屋根に積んでいるから、揺れが増幅され、体が簡単に宙に浮く状態が十二時間も続いていた。

「砂漠に地図はいらない」と豪語していたターバン姿の運転手もとまりまく暗黒の闇のカーテンには勝てないと、さっさと車を止め、寝床を作り始めてしまった。日中は気温が四十度を越す灼熱地獄でも、陽が落ちれば、氷点下。セーターを通す寒気が、車の揺れに耐えた体の痛みを増増させ、なかなか寝つかれない。

ふと気がつくとき空には降るような満天の星。母校を卒業後、級友と何度も通った清里の学校寮でも見たことのない星の数だった。そういえば、管理人さんに内証で屋根に上がり、時間の経つのも忘れて、星空の下でいろいろなことを話し合ったな、と妙な感傷にひたってしまっただけ。

破壊の続く地球環境の中でもまだまだ守られるものは多い。そして、級友との友情も。

(読売新聞社勤務)



高校41回生 (平成元年卒)

佐宗 岳彦

先日、書店で三木清の『人生論ノート』を目にして懐かしく思い、早速購入した。私は竹早高校時代にこの著作に初めて触れたのである。あの頃は、何げなく急ぎ足で読んで理解したつもりになっていたが、今こうしてじっくりと読んでみると、所々で新鮮な高揚感を覚える。高校を卒業して十一年近い歳月が流れたが、ただ無駄に時を過ごしたというだけではないようだ。私の高校生活は、まず生物部と写真同好会での活動と共に蘇る。胸乱野圃、根掘りを携えて山に出掛け、目新しい植物を見つけては図鑑で調べ、採集をし、写真撮影をした日々。そういう活動を通して、今でも交流の続く貴重な先輩や友人に恵まれた。また、心から尊敬できる先生方との出会いもあり、今も心の絆を大切にしている。そんな充実した、欲びに満ちていた時がある一方で、生きていく上で重要な問題に直面し、色々と迷い、多くの事を考えさせられたのもこの時期である。今、困難な状況に陥ったとしても、この時代に立ち返って考えてみると打開できそうな気がする。そして、以前保留していた問題も自分なりに深く考え続けていると、突如として視野が開ける瞬間が訪れることもある。竹早での時間と空間は私の原点である。象徴的なヒマラヤ杉と明るく弾むようなリズムをもつ校歌が詩情を漂わせ、百年の伝統の流れの中に奥深く強靱な精神を感じさせる私の心の故郷である。

高校30回生 (昭和53年卒)

柴田 美香 (旧姓 真貝)

同窓生の皆様、最果ての地よりご挨拶申し上げます。

私は昭和53年に竹早高校を卒業し、山口大学医学部、東大医学研究所およびカリフォルニア大学サンディエゴ校を経て、4年前よりここ蝦夷地(一)で内科医として働くこととなりました。三代続いた江戸っ子の身としては一生東京から離れたくはなかったのですが、東西南北に移動が続き、人生の不可思議さに驚いている今日この頃です(?)。

さて、私の勤務しております釧路労災病院は、市内のみならず道東全域の医療を担当している大変多忙な病院です。観光客が受診される(中には救急車で運ばれて来る)ことも多く、気の毒だとは思いつつも、知り合いではないかなあ、とカルテの住所をチェックしてしまいます。と、ここまで書いたところで実家に用事が出来、週末帰省することになりました。うーん、やっぱり東京は暖かい。雪もないので足もとに注意しなくても歩けるし快適だ、などと考えながらテレビを見ていたら、「道東二泊三日で二万九千八百円」という旅行番組にびっくり!

いやー冬場は観光客も減るのでこんなに安く来れるんですねえ。皆様、札幌雪祭りなんかやめて是非一度冬の道東観光においでください。そして何か健康上のトラブルが起きたときにはご連絡ください。

高校45回生 (平成5年卒)

大谷 緑

私の年の同窓会がどのような活動をしているかということを書いて欲しいと依頼されたのだが、とても忙しく集まっているヒマはないのが現状である。ただ、隣のクラスは、担任の先生のご退職ということもあり、昨年の春にクラス会をしたようである。40人程が参加したらしい。我がクラスはそうした連絡もないまま、卒業からだいぶ経つ。思い返すと、卒業した次の年にクラス会をして以来、何もしていない。淋しい気もする。

クラスメートについては街でたまたま会った人や、何らかの関係で消息がわかる人以外はまったくどこで何をしていることや、わからないままである。高校に関して、私個人としては、ちょうど大学4年の時、教育実習という形で母校を訪れた。たった2週間という短い期間ではあったが、新しくなった校舎で、高校生たちと楽しい日々を送ることができた。母校の教壇に立ち、明るく真新しい校舎での高校生活が羨ましく感じられた。と同時に、自分の頃の、よく言えば、歴史ある校舎がなくなつたのが、無性に淋しかった。それでもやはり、工事の時期を過ぎた者にとって、新校舎はよいものだ。後輩には、新しい校舎の中で、古き良き伝統を大切にしてもらいたいなどと、複雑な感慨にふけつた実習期間であった。また、全てを語り尽くせないが、この辺で筆を置くとしよう。

さい。同窓生の皆様にお会いできません(ことを楽しみに?)お待ち致しております(!!)。

末筆ではありますが、創立百周年にあたり母校のますますの発展と同窓生の皆様のご活躍を北の空よりお祈り申し上げます。

連絡先 釧路労災病院 内科  
TEL 0154-22-7191(昼夜)

高校40回生 (昭和63年卒)

鈴木 克洋

「結婚しました」「子供が生まれました」写真入りの年賀状が届いた時に「懐かしいやつから連絡が来て本当に嬉しいな」と思うと同時に、時間がたつのは早いなと感じます。竹早を卒業して早くも十二年がすぎ、30歳になった今年。在学時代に八十五周年記念があつたため、二〇〇〇年には百周年を迎えるのだと意識してはいたものの、実際にその年になってみると実感あまりわかないのが本音です。

さて、私達、昭和六十二年卒業のメンバーはやはり会社では中堅ということもあり、ここ数年同期会は行っていません。前回実施したのが、約十年前でその時には「オリンピックイヤーには同窓会を開こう」と話をしたことを今でも覚えています。今年は、シドニーオリンピック開催の年。久しぶりに、ヒマラヤ杉 の下で学んだクラスメイトと再会出来る様、皆に連絡をとってみようと思っております。(全日空勤務)

高校51回生 (平成11年卒)

滝沢 知子

ある夏の日、私達は久しぶりに再会する事になった。3年E組同窓会。卒業してもう4カ月。それぞれが自分だけの道を歩く事に少しずつ慣れて来た頃。みんなどうしてんのかなあ。華やいだ街を目的の場所まで歩きながら考えるのは、竹早での思い出ばかりだ。

約束の場所には約束通りに懐かしい顔が集合していた。「元氣?久しぶり!」おかしい事なんて何もないのにほっぺたが勝手に笑ってしまう。嬉しさと照れ臭さが混じつた笑顔。一人一人懐かしい顔がやって来る度に、オーツという喚声が津波の様にかかる。そんな勢いのままペコペコのお腹でお店に雪崩込んだ。

威勢のいい焼肉の音を掻き分けながら交すのは、新しい毎日の話、皆で過ごした3年間の話。なんだ、皆変ってない。ちょっと大人びた外見の中にあの頃と同じ心を見つけて安心してしまふ。楽しい時間は経つのが速い。せっかくなのでこのまま帰るんじやつまらない。誰もが抱いていた同じ気持ち。その時どこからか声が飛んだ。「花火しよっか」

パチパチはじける花火と夜空に昇って行く煙。夏の夜風が気持ちいい。花火の命は短いから美しい。楽しい一時にも同じ事が言えるかも知れない。帰り際、「サヨナラ」は寂しいから大きく手を振った。「じゃ、またね」。目の前には真っ直ぐな道が続いている。ある夏の一日だった。

# 学校の現況

矢嶋 邦男 (竹早高等学校教頭)

明治三十三年(一九〇〇年)に、府立第二高等女学校として創立以来、本校も、今年、平成十二年(二〇〇〇年)で、創立百周年を迎えることになりました。

算会の方々にも、会長さんをはじめ、色々と百周年行事にご協力をいただき、有難く感謝致しております。今年二五四名の卒業生が算会に加入することになり、竹早高等学校一三九九一名、第二高等女学校三二八四名、昭和専攻科七三名、昭和補習科一三一名、明治補習科一一九名となります。算会のますますの発展を祝します。

平成五年に第一期工事として校舎棟が、平成八年に第二期工事として体育棟が完成しました。それから四年、内容もますます充実して来ていると思います。

平成十年度の卒業生は、平成十一年四月現在、国公立大学一〇名、私立大学一三四名、大学校一名、短大六名、専門学校二六名、就職三名が進路を決定していました。

進学率は、男子五十二パーセント、女子七十一パーセントです。

主な指定推薦依頼校は、

慶応義塾大学(理工学部・商学部)、学習院大学(文学部・経済学部・理学部)、東京理科大学(理

学部)、立教大学(英米文学部)、明治大学(理工学部・政経学部)、中央大学(文学部)、日本大学(理工学部・経済学部・生産工学部)、成蹊大学(法学部・経済学部)、明治学院大学(法学部)、法政大学(法学部・経済学部・工学部)、東京電機大学(理工系学部)、東邦大学(理学部)、北里大学(薬学部)、上智大学(理工学部)、清泉女子大学(文学部)、

東京経済大学(経済学部・経営学部)、東洋大学(工学部)、青山学院大学(理工学部)、工学院大学(工学部)、東京家政大学(家政学部・文学部)、武蔵大学(人文学部)、共立女子大学(家政学部・文芸学部)等です。

また、部活動も活発に行なわれております。部としては

ESS部 演劇部、コーラス部、コンピュータ部、茶道部、写真部、吹奏楽部、生物部、筆曲部、天文部、美術部、放送部、漫画研究部、化学研究部、剣道部、サッカー部、山岳部、柔道部、水泳部、卓球部、テニス部、ソフトテニス部、男子バスケット部、女子バスケット部、バドミントン部、男子バレー部、女子バレー部、野球部、陸上競技部があり、同好会として、服飾同好会、軽音楽同好会、文化研究同好会、JRC同好会があります。

陸上競技部は、平成十一年度関東大会に出場しましたし、吹奏楽部は、都のコンクールでA組銀

賞、アンサンブルコンクールで三年連続金賞を受賞しています。

また、平成十二年度からは、東京都の方針で、機械警備が本校にも導入されます。現在は、夜間には警備員さんが泊り込んで、学校の内外を見回っておりますが、四月からは無人になり、機械で警備することになります。多少は不便になることも考えられます。

それにしても同窓生の方には、学校も変わるものだと思われるかも知れません。都立高校は、種々の改革が行なわれており、本校も直接・間接を問わず、影響があります。更に、平成十五年度より学年進行で、新学習指導要領が実施されます。その新しい教育課程を、現在、教育課程委員会で検討しています。特に、「情報」と「総合的な学習の時間」が取り入れられることが、今までと大きく異なるところであります。これからは、大きく変わると思われます。竹早高校も一年一年変わることでしょう。



# 総会を終えて

平野 隆史 (高校9回生)

平成十一年六月五日(土)  
港区六本木国際文化会館

城戸崎会長の挨拶で午前十一時より平成十一年度算会総会が右記の会場で開かれた。

理事会報告後、平成十年度事業報告及び会計報告、平成十一年度事業計画案・予算案等承認され、総会は終了した。

最後に、今秋に予定されている創立百周年記念事業について坂原理事(母校教諭)より進捗状況について報告があった。記念事業実施にあつ

て、多くの困難が予想される行事に携わる方々のご苦労に、感謝したい。

懇親会は、別棟で開かれ、総会出席者の方々に移動して頂く。会場入口前に皆さんが多数集められた頃合いを計って、本日のアトラクションであるハワイアンバンドの演奏する迎いの曲が、会場内へとご案内する。曲の合い間にプロの指導でフラダンスを「お勉強」。皆さんの踊りはなかなか見事なものである。懇談後の演奏再開中、歌詞が刷られた紙片を配布。本日、二度目の演出を試みる。

「浜辺の歌」、「高校三年生」を高校生に戻って声を限りに歌い上げる。歌声が会場に響き渡り、

笑顔が溢れる。バンドの伴奏で高女と高校の校歌を唱和し、終了。

当日は、幸いにも天候に恵まれ、初夏の陽光に満ちた庭園の緑は美しく、ハワイアンの調べにも誘われてか、木々の下、散策される姿が見受けられた。

総会開催の大役を果たし終え、その役回りを十回生へとバトンタッチ出来たことに、安堵感を心から満喫している。

会報発送作業にも御協力頂いた先輩、十回生、十一回生の皆様に心から感謝いたします。そして常に限りなく智力と労力を提供してくれた九回生の、諸君の友情を誇りに思っている。

## 11年度総会決算報告

### [総会・懇親会経費]

●収入	
・会費(会員：@7,000円×110名)	770,000円
(学生：@2,000円×2名)	4,000円
・祝い金(7口)	100,000円
・算会より補助金	391,342円
計	1,265,342円

●支出	
・会場・宴会費(看板代等を含む)	1,091,212円
・印刷費(プログラム・出席者名簿)	53,550円
・土産代(来賓7名分)	16,905円
・バンド演奏謝礼	100,000円
・会議費(バンド打合せ・2回)	3,150円
・雑費(コサージュ)	525円
計	1,265,342円

### [会報発送経費]

●収入	
・準備金(預り金)	100,000円
・補助金	2,946円
計	102,946円

●支出	
・弁当代(延べ117名分)	72,232円
・飲み物代(お茶・ジュース等)	11,654円
・梱包用資材費(テープ等)	6,605円
・文房具代	2,515円
・通信費(FAX・切手代)	1,230円
・返信ハガキ代(小石川郵便局納付)	8,710円
計	102,946円

以上の通り報告致します。

平成11年6月5日

高校9回生幹事 駒見宗信・平野隆史

# 理事会報告

算会副会長 小山紀久彌 (高校6回生)

平成十一年度は、次のとおり理事会を開催した。  
○四月十六日  
▽議題一 平成十年度事業報告及び決算報告について

對崎俊一副会長から次の説明があり審議ののち原案どおり決定した。

一、本年度から新会則により入会金を八千円、年会費千円としている。  
二、百周年記念事業予算に百万円余の赤字が生じたので補填する。

▽議題二 平成十一年度事業計画及び収支予算案について

對崎俊一副会長から次の説明があり審議ののち原案どおり決定した。

一、計画、予算とも前年度なみとする。  
二、百周年記念事業繰入金金を二百万円計上する。  
▽議題三 募金活動状況について  
小澤悦理事から計五七名、四二九万円余で目標の六分の一程度である。

▽議題四 百周年記念事業の進行状況について  
坂原富美代理理事から報告があった。

また記念誌の贈呈は基本的に、寄付者に対して一人に一冊と決定。

▽議題五 平成十一年度総会について  
駒見宗信理事から報告があった。

▽その他  
一、角掛隆理事から会報委員会の報告があった。  
二、中村倭文子(高女四四回)、堀政勝(高校十二回)両理事の辞任を承認。

# 会報通信

烏兎忽忽とはいえ会報の編集委員長を引き受けて早くも十一年の歳月が過ぎました。今年母校竹早高校は、創立百周年を迎えるという事で多くの記念事業が計画されています。会報も百周年記念特集を企画いたしました。今回は特に理事会の承認を得て予算を増額してもらい、表紙をカラーにして本文を増ページ定形B判に変更し紙も少し厚くしました。発送も従来の郵送より安くして重量規制の緩い大和のメール便に変更しました。

ご寄稿いただいた先生方、諸先輩・後輩の方々、有難うございました。又広告にご協力いただいた方々有難うございました。会報委員の方々一年間御苦労様でした。思い起こせば、当時副会長の関文隆君の提案で会員全員に届く新生「算会報」を発行しようと私に相談があり創刊号実現の運びとなりました。

私自身 編集者としてのプロではなく小さな広告会社・印刷会社の経営者ということだったので最初は手探りの状態からスタートしました。編集に苦労しただけではなく紙の厚さ・重さ・色等、そして郵便局の規制等色々な注文・意見をまとめゆくのが精一杯でした。しかし流石！竹早高校の卒業生は人材豊富、次から次ぎへと優秀な諸先輩・後輩のメンバーの参加協力があり今日に至っております。

○九月二十七日

▽議題一 総会報告について  
駒見宗信理事から報告があり、赤字分三九万円余の会費からの支出を決定。

▽議題二 募金活動状況について  
小澤悦理事から計一、四八九人、一、五四一万円余であることが報告され、これに基づき再度応募を促すため通知することとした。

▽議題三 記念事業の状況について  
坂原富美代理理事から実行委員会の発足のほか、次のとおり報告された。

一、式典参列者を一六〇〇名と予想。  
二、算基金から校旗と校歌のレリーフ(体育館、記念文庫等を予定)。

三、祝賀会は東京会館で、八〇〇名を予定。  
四、記念碑は実行委員会に検討する。

▽議題四 会報について  
角掛隆理事から百周年記念として増ページ等が提案され、企画、目論見書の提出を求め、検討することとした。

▽議題五 平成十二年度総会について  
関文隆理事から六月二十五日、東条会館で開催し、会費を七千円としたとの説明があった。

## 平成10年度会計報告

自・平成10年4月1日 至・平成11年3月31日

●収入	
前年度より繰越金	15,928,751
入会金	1,936,000
新入会員 242名	
年会費	2,273,000
総会会費	1,148,000
名簿代金	4,000
特別活動収入金	975,000
観劇会・新年会	
広告収入	600,000
雑収入	10,000
受取利息	25,151
合計	22,899,902
●支出	
総会開催関係費	997,083
贈呈記念費	411,970
新入会員名簿制作費	77,170
特別活動関係費	965,323
会報発行費	3,129,842
百周年記念事業繰入金	1,356,273
会議費	127,675
通信費	9,350
旅費交通費	53,790
事務用消耗品費	31,350
慶弔交際費	125,558
雑費	161,562
事務委託費	120,000
予備費	—
次年度繰越金	15,332,956
合計	22,899,902

▽議題六 理事、監事の選任

小山豊子副会長から理事に黒瀬忠生(高十一回)、河村恵子、萩隆之介(高十二回)各氏を、監事に田中令子(高四回)氏を推薦、選任を決定。  
▽その他  
平成十二年度から新入会員役員歓迎会を総会ですることとした。

○十一月九日  
▽議題一 会報について  
角掛隆理事から従前より百万円程度の費用増になると報告され、承認した。

▽議題二 記念事業について  
一、坂原富美代理理事から式典は文京シビックホール、講演は小森陽一東大教授、その他の報告があった。

二、記念碑は伊藤麻沙人氏(高二十回)、小堤良一氏(高二十四回)に依頼したい旨駒見宗信理事から提案され、承認した。

▽その他  
関文隆理事から平成十二年度総会について十時受付開始、十一時総会、十二時十分〜十四時三十分懇親会の予定と報告された。

今日では創刊当時のメンバーは私と山

廣先輩・関文隆君の三人になってしまいました。強かな新入メンバーが多くあり、そろそろ引退を考えている昨今です。同窓会は異業種交流の場として重要な意味があり、参加していると相当な勉強になることが判ります。勤めている会社だけの世界しか見えない人、家庭の中だけの世界しか見えない人、は是非とも楽しい会報委員会で色々な業種で活躍している先輩、後輩の話を聴いて勉強して下さい。

会報委員会は毎月一回第三水曜日夜六時三十分学校へ集まり編集会議を行って来ましたが今後同じ方針で行きたいと思っております。  
学校が今年の四月から夜は守衛さんが都の予算の関係でいなくなるので使わせてもらえなくなり、定期的に使える場所を探しています。

さて、会報委員会は竹早高校の卒業生であればどなたでも参加出来ます。今私達は若い二十代・三十代・四十代の方が会報委員会へ参加して来る事を希望しています。是非とも振るってご参加下さい。鶴首してお待ち申し上げます。

編集委員長 角掛 隆(高校10回生)

デザイン 編集 データー処理  
フィルム出力 総合印刷

## 株式会社 東京プリント印刷

代表取締役 金森延武

(昭和28年・高校5回生)

〒112-0002 東京都文京区小石川5-31-8  
TEL.03-3811-3314(代) FAX.03-3811-3319

## 板橋陸上競技協会

理事長 豊泉 和男

昭和33年卒(高校10回生)

〒175-0091 板橋区三園1-37-9

TEL 03-3975-2936

## 株式会社 三宝

岩佐 守啓

昭和33年卒(高校10回生)

〒274-0825 千葉県船橋市前原西2-14-2

☎ 0474-76-1131

母校 100 周年記念事業の成功と簞会の更なる発展をお祈りします

# 同窓会 簞 会

会長 城戸崎 愛(料理研究家)

高女 43 回生

祝 100 周年竹早高校と同窓会の発展をお祈りします

# 関 西 簞 会

会長 河合道子

高校 3 回生

祝 100 周年竹早高校と簞会の発展をお祈りします

# 湘 南 簞 会

会長 松本紀子

高女 41 回生

御入会・お問い合わせ 高女 48 回生 源中松子 ☎ 0468-71-0299

石州流伊佐派

半々庵八世

# 半月庵 磯野宗琢

(磯野うめ子・昭和13年卒)

〒 113-0021 文京区本駒込 6-11-22 電話 03(3946)4011

# 祝・竹早高等学校創立 100 周年



# 三 三 会

さん さん かい

## 昭和 33 年卒業同期会

### 〈高校 10 回生〉

※ 2000 年の「簞会総会は」私たちが担当します

パロディで世相を斬る!

# マッド・アマノ

URL

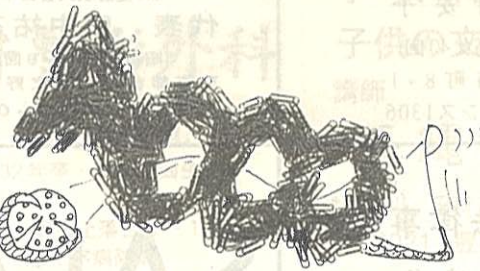
(天野正之 10回生)

<http://www.madamano.com/>

E-mailアドレス

parody@madamano.com

有限会社 ビッグバン 東京都北区上中里1-14-2



〒112-0013 文京区音羽2-1-2-507

## 滝沢 由紀夫

(昭和34年卒・高校11回)

TEL.FAX 03-3943-4823

クスリのご相談は

## 株式会社フヂヤ薬局

薬剤師 小川英康 (昭和40年卒)

東京都墨田区墨田5-39-4 TEL(03)3611-6519

モスバーガー・チェーン・メンバー

有限会社 ビーアンドエイチ

代表取締役 加藤桂子 (高校7回)

〒561-0893 豊中市宝山町19-26

☎06-6853-6255 FAX06-6853-6256

モスバーガー営業店

●新金岡店 堺市蔵前町

●京橋店 大阪市都島区

●今福店 大阪市城東区

●南森町店 大阪市北区

## 西出法律事務所

弁護士 西出紀彦(昭和36年卒)

事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満3-6-22 大阪屋ビル3階

TEL(06)6365-9813 FAX(06)6365-5967

.....魚の好きな人の店.....座敷、テーブル.....

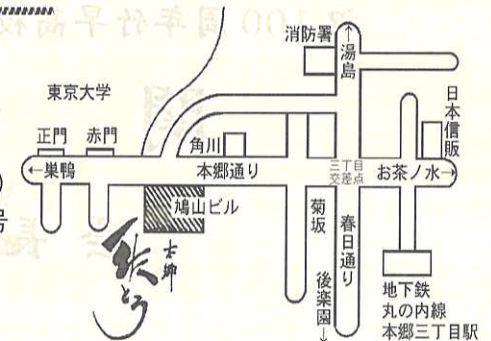
## 本郷 佐とう

昼:11時半~1時45分 夜:5時~10時(休日:日曜・祝日)

☎113-0033 東京都文京区本郷5丁目23番地12号

鳩山ビル地1階

電話 03(3816)3224



## 淑子の鍼灸室

室長・国立国際医療センター麻酔科勤務(月・水)

医学博士・鍼灸師 藤田淑子(昭和23年卒)

診療日:火・木・土(限定予約)

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-34-3

TEL03(3821)7075 FAX03(3822)2986

専門体育教師による水泳・体育指導  
個性を伸ばし、のびのびと明るい、元気な子を育てる

## 日進まこと幼稚園

〒331-0044 大宮市日進2-1048(丸広百貨店南隣り) ☎048-663-0938

## 第二まこと幼稚園

〒331-0044 大宮市日進3-193(日進北小東隣り) ☎048-664-1785

FAX. 048-665-0946

野尻国彦(昭和41年卒・高校18回)



酸洗鋼板・熱延鋼板  
シャーリング・スリット・  
レベラーカット 加工販売

貴金属シール・サイン

**泰誠産業株式会社**

代表取締役 内山光政

(昭和33年卒・高校10回生)

〒110-0005 東京都台東区上野3-20-7  
行徳ビル4F

TEL.03-3836-1068 FAX.03-3832-8072



**奄美クルマエビ(株)**

代表取締役 上野國衛

(昭和33年卒・高校10回生)

〒894-0506  
鹿児島県大島郡笠利町手花部353番地

TEL 0997-63-2406  
FAX 0997-63-1351

バイオ理化学実験器械 販売

**日京テクノ株式会社**

代表取締役 新井 堅司

昭和30年卒(高校7回)

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-17-8

TEL.03-3814-2066  
FAX.03-3814-2060

医療法人

**武井整形外科**

院長 武井秀丸

(昭和32年卒・高校9回生)

〒338-0001 与野市上落合8-1-12  
赤十字病院前)

TEL.048-855-0663

手袋人形作家  
子供の文化研究所  
講師

**長縄泰子**

旧姓長谷川 昭和25年卒(高校2回生)

〒171-0021 豊島区西池袋4-3-5

TEL 03-3982-6847

特殊刃物・スクレパー 薄刃、厚刃、  
丸刃、超硬 設計 製作

**ダイワ刃物工業有限公司**

代表取締役 関 文隆

昭和33年卒(高校10回)

〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-9-8

TEL03-3550-3355  
FAX03-3550-3519

祝100周年母校竹早高校と簗会の発展をお祈りします

市園盛一郎・岩上道幸・(故)岸田宇内・滝川秀次郎・向井正昭

1949年入学(高校4回生)初の男子生徒

**児童美術教育セミナー参加募集!**

創造力を励まし育てて50年、今こそ子どもの心を育てよう

とき 7月28日~7月31日 主催 創造美育協会

要項請求先 (セミナー事務局) TEL.FAX (045)973-4785

児童美術教育研究所 小さな原始人  
子どものアトリエ野の花 相馬昌子(昭35年卒)

手づくり日替わりお弁当

**カトレア**

健康のため1日30品目食していますか

カトレア弁当で沢山摂取して下さい

〒194-0033  
町田市木曾町123-7 名越 啓子

TEL.FAX 042-722-0651 (昭和34年卒)

**河野歯科医院**

☎ 03-3811-5456

〒112-0002  
文京区小石川1-16-11  
学校医 河野正勝

**友愛婦人会**

会長 鳩山安子

昭和15年卒(高女40回)

中央区明石町8-1  
聖ルカレジデンス1306

(有)紅や弁当店

JR上野駅入谷口1分

代表 田中祐三郎

(昭和32年卒・9回生)

東京都台東区東上野4-10-7

☎ 03-3841-0063

コピーのことならおまかせ下さい

原寸・縮小・拡大

営業時間 9:00~18:00 休日:土曜、日曜、祭日

**サンヨー工業**

**對崎俊一法律事務所**

弁護士 對崎俊一

昭和40年卒(高校17回)

**SALAT**

代表取締役 吉岡忠俊

昭和36年卒(高校13回)

〒173-0001 板橋区本町32-12-102

☎ 03-3964-6090

FAX 03-3964-0939

〒105-0001 港区虎の門1-1-11  
マスタビル5F

TEL 03-3506-7941

FAX 03-3506-7943

本社 兵庫県姫路市北条356-1 〒670-0947  
Tel.0792-84-1380 Fax.0792-24-7746

東京支社 東京都台東区台東2-27-7 〒110-0016  
日土地御徒町ビル8F  
フリーダイヤル0120-036381 Fax.03-3832-6389

中国貿易専門商社

**誠和貿易株式会社**

代表取締役 守岡 敬祐 昭和30年卒(高校7回)

本社 〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-5-21 井上ビル6F

☎ 0425-27-7552 FAX. 0425-27-7805

上海連絡事務所 中国・上海市仙霞路470虹城公寓18号201号

☎ (021)62087494 FAX.(021)62752245

携帯:13901728761

**竹野 昌子**

(昭和28年卒・高校5回)

〒165-0023 東京都中野区江原町1-40-3

☎ 03-3951-8250

八十八夜摘み 静岡 川根新茶  
キタハイの川根茶

**株式会社 山廣園本店**

取締役社長 山廣善一  
専務 山廣俊雄

昭和30年卒(高校7回)

〒120-0002 東京都文京区小石川4-21-1

TEL 03-38112002 FAX 03-3811-0506

Einen besten glückwunsch und dessen Erfolg!

101年へのよき一步を!

内海 晶 (高校4回卒)

株式会社ジャパンPRビジョンは、パブリック・リレーションズ業務の専門会社として、1970年(昭和45年)設立いたしました。以後今日まで内外の各企業はもとより官公庁、地方自治体、教育機関、諸団体などのPR活動に独自のPR理念をもって対応し、実績をあげてまいりました。

時代を先取りし、長期的な展望に立って総合的PR活動を展開する  
(株)ジャパンPRビジョンの活動に、今後ともご注目ください。



株式会社 **ジャパンPRビジョン**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-10-6 御幸ビル5F  
TEL. 03-3574-6591 FAX. 03-3574-0056

取締役社長 常木 盛雄 昭和29年卒(高校6回)

日本パブリック・リレーションズ協会会員 国際PR協会会員

# 祝・竹早高等学校創立100周年

## 七賢会

昭和30年卒業同期会  
〈高校7回生〉

## 八起会

昭和31年卒業同期会  
〈高校8回生〉

## 九篁会

昭和32年卒業同期会  
〈高校9回生〉

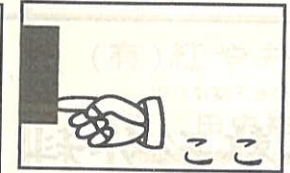
## 土篁会

昭和34年卒業同期会  
〈高校11回生〉

2001年の「篁会総会」は私たちが担当します

- ◎西池袋囲碁サロン 03-3985-3280
  - ◎サンフラミンゴ 03-3982-9061
  - ◎純喫茶フラミンゴ 03-3986-5638
  - ◎割烹 鞍 03-3986-3926
- 北白樺高原・姫平
- ◎ホテル・フラミンゴ 02686-9-2011

●交番  
東武百貨店  
北口



池袋駅

←至新宿

至大塚→

## 西池袋ビルディング株式会社

代表取締役 恩田裕城 (昭和33年卒・高校10回生)

豊島区西池袋1-28-1 TEL 03-3983-4555 FAX 03-3986-3927

## 平河総合法律事務所

所長 稲見友之

(昭和33年卒・高校10回生)

東京都千代田区平河町1-6-15 USビル7F

TEL03-3261-1411 FAX03-3263-2698



●新聞・雑誌広告代理店(宣伝・企画・立案)

●デザイン・編集・印刷

●日本陰陽暦日対照表出版発売元

株式会社ニシタニ

〒113-0022 東京都文京区千駄木3-22-11-623

TEL.03-3821-0210 FAX.03-3823-0064

角掛 隆(旧姓・長岡) 角掛昌枝(旧姓・三部)

(昭和33年卒・高校10回生)

E-mail ID: XLB07035@nifty serve.ne.jp

URL http://member.nifty.ne.jp/nitho/

●自分史・詩集・回顧録・写真集・小説  
遺稿集の出版お手伝いします。

●ビデオの編集制作。インターネット  
のホームページ制作からプロバイ  
ダーの手配・セッティングまでお任  
せ下さい。

●学年別名簿の作成簡単にお安く制作  
出来る方法教えます